

## 平成24年度社会福祉法人福浜会事業報告

国の動きとして、「地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律」が、平成24年6月27日に公布され、平成25年4月1日から、「障害者自立支援法」から「障害者総合支援法」になった。内容的には、障害者の定義に難病等を追加し、また重度訪問介護の対象者の拡大、ケアホームのグループホームへの一元化、小規模入所施設の創設などが施策として挙げられている。

この中でも、注視すべきは、平成26年4月からの「障害支援区分」の実施に向けた厚生労働省の検討の動向である。知的障害・精神障害の方の場合、コンピューターによる一次判定で低く判定される傾向があり、その特性が反映されていないとの意見を受け、現在の障害程度区分判定方法を廃止し、新たな指針を出すというものである。

利用者さん一人ひとりの思いや願いは、元々このような判定では図ることは困難である。私たちが日常接しているのは生きている人であり、生活である。望む未来は千差万別で、上手く伝えることが難しい人たちのそれぞれの心にあるものを、共に実現していくことが私たちの支援という仕事なのだと思う。本来は、尺度としてそういった支援の度合いを測らなくてもよい制度というものが実現するのが理想なのだが。

さて今後、喫緊の課題として「障害者権利条約」の批准と「差別禁止法」の制定等が議論されてくると思われる。障害のある人の「意思決定支援」、「合理的配慮」がキーワードになる。「合理的配慮」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と定義されている。私たちが支援の場で実践し、地域社会に伝えていくべき重要な命題だと言える。

一方法人内に目を移してみると、平成24年度に、法人内全ての事業所が障害者自立支援法の新事業体系に移行。その中でも、重症心身障害児(者)通園事業の廃止に伴い、主たる対象者を重症心身障害児(者)とした生活介護事業及び児童発達支援事業並びに放課後等デイサービスを一体的に行う、多機能型(定員5名)としてスタートしたが、報酬体系が月額制から日割りになったことにより収入減となり、赤字の運営となった。就学前の乳幼児の受け入れについては、希望はあったが利用には至らなかった。次年度は、保育、療育の面をより充実し、受入れを図っていきたい。

また、平成24年度から26年度にかけて、指定特定相談支援事業及び障害児相談支援事業において、全ての障害者の計画相談(サービス等利用計画作成)を行うことが制度上決まっていることを受けて、当法人では、平成24年度にこれらの事業の指定を受け、この事業を進めてきている。現在のところ、計画相談をしてもそれに見合うだけの報酬体系になっていないこと、計画に至るまでのアセスメントやそれに伴う基本相談等に要す時間がかなり掛かっていることなどが問題点として挙がっている。

市町から委託を受けている相談支援事業所であれば委託費が助成されるが、当法人のような場合は全ての経費は事業所が負担する形となり、この点も問題となっている。中遠地域の相談支援事業所の間でも、このことについては、委託を受けている事業所とそうでない事業所との役割分担をどうするか、検討されている。

この他、平成24年10月からの障害者虐待防止法の施行や市町の基幹相談支援センター設置の動きなど、身近で直接、間接に関わってくる課題等もある。障害のある方たちが暮らしやすい地域になっていくための関係機関との連携は、今後も法人の役割としてできる限りその務めを果たしていきたい。

## 平成24年度理事会

開催日	出席者数／ 理事総数	議 題
5/26	6 / 7	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成23年度施設及び事業会計の補正予算（最終）案について</li> <li>2 平成23年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告）</li> <li>3 あにまあと運営規程の改定について</li> </ol>
9/1	7 / 7	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉法人福浜会定款変更について</li> <li>2 指定特定相談支援事業・障害児相談支援事業指定申請について</li> <li>3 はまぼう運営規程の改定について</li> <li>4 あにまあと運営規程の改定について</li> <li>5 社会福祉法人福浜会経理規程の改定について</li> <li>6 松ぼっくり及びそるとぽっと車両購入について</li> <li>7 平成24年度施設・事業会計の当初予算及び第一次補正予算案</li> </ol>
H25 2/20	6 / 7	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉法人福浜会評議員の選任につき同意を求めることについて</li> </ol>
2/20	6 / 7	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次期理事長の選出及び理事長の職務代理者の指名について</li> <li>2 平成24年度障害福祉サービス事業者等の実地指導結果報告及びそれに伴う潮の香変更届出書の提出並びに運営規程の変更について</li> <li>3 各施設の作業棟等の建物の基本財産編入に伴う定款の変更について</li> <li>4 そるとぽっと車両購入について</li> <li>5 平成24年度本部会計及び施設・事業会計の第一次及び第二次補正予算案について</li> <li>6 潮の香自立訓練事業の生活介護事業への変更申請について</li> <li>7 新事業体系移行等に伴う経理規程の改定について</li> <li>8 新社会福祉法人会計基準への移行について</li> </ol>
3/23	7 / 7	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成25年度からの新社会福祉法人会計基準移行に伴う経理規程の改定</li> <li>2 各事業所運営規程の改定について</li> <li>3 一般相談支援事業所結（みなし）の廃止について</li> <li>4 社会福祉法人福浜会定款第1条（目的）及び一般相談支援事業所結（みなし）の廃止並びに字句訂正に伴う定款の変更について</li> <li>5 平成24年度本部会計及び施設・事業会計の補正予算案について</li> <li>6 平成25年度法人及び各事業所事業計画について</li> <li>7 平成25年度事業所等管理者（施設長）の人事について</li> <li>8 平成25年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について</li> </ol>

## 平成24年度評議員会

開催日	出席者数／ 評議員総数	議 題
5/26	10 / 15	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成23年度施設及び事業会計の補正予算（最終）案について</li> <li>2 平成23年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告）</li> <li>3 あにまあと運営規程の改定について</li> </ol>
9/1	13 / 15	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉法人福浜会定款変更について</li> <li>2 指定特定相談支援事業・障害児相談支援事業指定申請について</li> <li>3 はまぼう運営規程の改定について</li> <li>4 あにまあと運営規程の改定について</li> <li>5 社会福祉法人福浜会経理規程の改定について</li> <li>6 松ぼっくり及びそるとぼっと車両購入について</li> <li>7 平成24年度施設・事業会計の当初予算及び第一次補正予算案</li> </ol>
H25 2/20	13 / 15	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次期理事長の選出及び理事長の職務代理者の指名について</li> <li>2 平成24年度障害福祉サービス事業者等の実地指導結果報告及びそれに伴う潮の香変更届出書の提出並びに運営規程の変更について</li> <li>3 各施設の作業棟等の建物の基本財産編入に伴う定款の変更について</li> <li>4 そるとぼっと車両購入について</li> <li>5 平成24年度本部会計及び施設・事業会計の第一次及び第二次補正予算案について</li> <li>6 潮の香自立訓練事業の生活介護事業への変更申請について</li> <li>7 新事業体系移行等に伴う経理規程の改定について</li> <li>8 新社会福祉法人会計基準への移行について</li> </ol>
3/23	14 / 15	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成25年度からの新社会福祉法人会計基準移行に伴う経理規程の改定</li> <li>2 各事業所運営規程の改定について</li> <li>3 一般相談支援事業所結（みなし）の廃止について</li> <li>4 社会福祉法人福浜会定款第1条(目的)及び一般相談支援事業所結（みなし）の廃止並びに字句訂正に伴う定款の変更について</li> <li>5 平成24年度本部会計及び施設・事業会計の補正予算案について</li> <li>6 平成25年度法人及び各事業所事業計画について</li> <li>7 平成25年度事業所等管理者(施設長)の人事について</li> <li>8 平成25年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について</li> </ol>

# 平成24年度はまぼう・あにまあと活動報告

## 1. 在籍者の状況

はまぼう 平成24年度の定員30名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

月		24年	5	6	7	8	9	10	11	12	25年	2	3	合計
区分		4									1			
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	
	女	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
	計	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	

## あにまあと 契約者数

月		24年	5	6	7	8	9	10	11	12	25年	2	3	合計
区分		4									1			
生活介護		7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
児童発達		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
放課後等		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	

## 日中一時支援事業デイサービス対象者

月		24年	5	6	7	8	9	10	11	12	25年	2	3	合計
区分		4									1			
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

## 2. その他の利用状況

月		24年	5	6	7	8	9	10	11	12	25年	2	3	合計
区分		4									1			
養実 護習 等生	人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実研 習修 ・生	人員	0	2	2	3	0	2	6	5	1	2	4	1	28
	利用日数	0	6	8	4	0	5	12	9	5	7	26	1	83
見学 者	件数	0	2	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	6
	人員	0	2	0	24	0	0	0	0	0	3	0	0	29
ボテ ライ ンア	延人数	26	27	32	30	21	21	33	31	29	24	18	35	327
	特記							地域交流会(50)						

### 3. 活動の状況

#### 活動全般について

はまぼう・あにまあとでは、自分がやってみたいと思う活動を、所属するグループにこだわらずに選択する形態を継続してきた。全て本人の意向に沿うことができていないわけではないが、職員の配置が可能な限りは対応し、利用者さんが自分の意思を表現できる環境を心掛けてきた。

今年度よりスタートした重心多機能事業では、新たにリフレクソロジストの方が加わり、2名で週1回実施するようになるなど、リフレクソロジー（足裏マッサージ）が定着し、またスノーズレン等の活動も充実するように工夫を重ねてきた。

その他、利用者さんの希望を取り入れながら、土曜日に実施しているレクリエーション活動も定着し、職員の工夫もあり楽しい時間を過ごせている。スカイハウスができたことで、夏場の暑い時期に日陰で流しそうめんを家族とともに楽しむなど、活動を広げることができた。はまちゃん会（本人会）主催の行事、グループ活動や個別体験なども、工夫をしながら取り組むことができた。特に個別体験については、個別面談時にご本人・家族と相談し、短期的目標としてその希望を個別支援計画に記載するようにした。

健康面で気になる点として、重心の方が年齢的な面から、医療的なケアが必要になってきていること、また50歳を過ぎ体調に変化が出てきた利用者さんが出てきていることである。主治医や協力医との情報交換の重要性を感じている。また、精神面や事故による怪我等によって通所が困難となっている利用者さんもあり、通所時だけでなく、家庭への連絡等をこまめにしていくことを心掛けてきた。

### 4. グループ活動報告

#### らでいっしゅ

グループの主な作業活動は、受注作業・縫製等の自主製品・アルミ缶リサイクル・園芸・外部作業を中心にぼぷりん工房・ふぁーれ・オズグループと3つのグループに別れ行った。外部作業以外はグループのメンバーにとらわれず、利用者さんのやりたい作業を選択し、行っていった。

#### (1)ぼぷりん工房

##### ①受注作業

ブリヂストンのキャップ分離作業を行う。作業を4工程に分け、それぞれが出来る工程を担当した。必要な利用者さんに対しては補助具を使用するなどして、利用者さんが自分で出来ることで自信にも繋がっていった。年間を通して比較的安定した量をもたらすことが出来、利用者さんの作業意欲も高まったと思われる。

##### ②さをり織り

さをり織りは個性を大切にしている為、利用者さんが縦糸・横糸の選択、織り方まで本人に任せることでオリジナルの作品を作ることが出来た。織りあがった布は縫製作業によって製品化し、同じものがひとつと無いオリジナルのさをり織りは好評を得ている。

リフレUでの展示即売や暮らしの菓音など、見て知ってもらえる機会への参加をした。

##### ③縫製

さをり織りで織りあがった布の個性を生かせるように考え、携帯入れや巾着・ふくろう根付などの製品に仕上げた。トートバック・ポーチ・ペンケースなどの製品については、ボランティアさんの協力も頂いた。

また、作る物や生地・ボタンの色を利用者さん自身に選んでもらうことで、自分で仕上げた達成感を味わうことや、製作意欲の向上にもつながった。

##### ④クリスマスツリー

スプレーで色塗りをする担当・飾り付けの担当と利用者さんが別れ、それぞれ個性のあるツリーを楽しみながら仕上げる事ができた。

##### ⑤印刷

パソコンが得意な利用者さんが年賀状作りを行った。新しいソフトを導入し、戸惑いもあったが、利用者さん自身が考えながら自信をもって実施することが出来た。

## (2)オズグループ

### ①アルミ缶リサイクル

毎週月曜日福田地区内を缶回収に廻り、缶つぶしを行った。毎週火曜日に缶運搬を実施。新規の回収先も開拓し実施していった。利用者さんの活動としてはプルタブ取り、缶つぶしに作業工程を分けることで作業に幅ができた。不況の影響でアルミ缶の単価が下がり、より高く購入してくれる業者へ運搬先を行った。

### ②園芸・畑

11月～1月の間、県庁玄関等に飾る30鉢のプランター作りをメインとして実施。グリーンバンクで頂いた種を育て苗作りを行った。県庁への納品・回収も利用者さんと行い通常とは違う活動で楽しむことが出来た。その他の苗は、はまぼうの無人販売やバザーで販売したり、ボランティアさんの協力を得ながら花壇に植えるなどした。

野菜作りはボランティアさん主体で、さつま芋・玉葱を作り、利用者さんと収穫。採れた野菜は販売したり、地域交流会で焼き芋を振る舞うことが出来た。

## (3)ふぁーれ

請負作業の工程も一人ひとり定着してきたため、作業の進み具合が早くなった。個々に行く数もたくさんできており、ミスも少なくなってきた。途中ミスがあると、気づいて報告することができている。ほりずみ内職が無いときや、早く内職が終わってしまったときに、代替りの作業として、オズグループと協力し、缶回収や缶運搬を行い、意欲的に取り組んでいる様子がみられた。

## (4)外部作業

### ①コーケン工業

法人内施設利用者6名で、磐田市竜洋にある工場に通い、部品の組み立て作業（金具にゴムをはめる作業）を行っている。

約5年目になるが、仕事にも慣れ、個々の作業スピードも速くなった。作業内容がほぼ固定されているので、毎日行うことで、仕事のスピードも上がり、分量も増えてきている。新しい部品も増え、難しい工程もあるが、一人一人が責任を持ち、大きなミスもなく安定して取り組んでいる。

### ②於保老健施設・さくらの苑

各施設とも週1回、シート交換を行ってきた。それぞれが協力し合いながら、仕事に取り組んでいる。作業スピードもあがり、時間内に、スムーズにシート交換ができるようになった。慣れてきていることもあり、雑に仕事を行う場面もないわけではないが、その都度伝えていくことで、ひとりひとりがきちんと仕事をしているという意識を持って取り組めるようになった。

さくらの苑については、職員が付き添わずに行っている。利用者さん3名と、少ない人数での作業で、個々の負担は大きくなるが、困った時には職員に聞きながら皆で協力をして取り組むことができています。

## (5)販売（ぽぷりん工房・オズグループ）

出来上がった製品・苗等は、はまぼう前の無人販売や地域のバザー、そるとぼっと販売所、観音寺販売、アプレゲール、お茶の山大園、iプラザで販売した。地域との関わりを深めるためにも作品展覧会などに積極的に出展することで、意欲的に製品作りができた。地域のバザーでは、縫製品・クリスマスツリーともに売り上げは上々で、特にさをり織りの携帯入れとふくろうの根付けは好評で、ぽぷりん工房の看板製品となっていた。苗・野菜等も無人販売や地域のバザー等で好評であった。

## その他の活動について

### (1) グループ活動

＜朝・帰りのミーティング＞（ぽぷりん工房・オズグループ）

- ・ 進行は曜日ごとに当番を決め、利用者さんが主体となり、やる気をもって行えた。
- ・ ミーティング後にラジオ体操を実施し、体を軽く動かすことで作業活動にスムーズに移ることが出来た。

＜グループ活動＞

- ・ オズグループとふぁーれは合同でグループ活動を行い、外出としては5月にかわせみ公園でバーベキュー、3月には中華料理ランチを食べに行き、浜岡にて河津桜を見ながら浜岡砂丘を散策した。秋の収穫シーズンには、畑で収穫したさつま芋で焼き芋パーティーを実施し、皆で楽しむことが出来た。ぽぷりん工房では、アクティ森で1日のんびりと過ごしたり、磐田市内のバイキングレストランでの食事、うな井・そうめんやお菓子作りなどで楽しんだ。
- ・ 宿泊体験は3グループに分かれ、それぞれの希望にあわせ、活動することが出来、1つのグループはオートキャンプ場で楽しむことが出来た。

### (2) スポーツ等の個別活動

昨年度よりスポーツ体験を「スポーツ等の個別活動」とし、スポーツ体験に限らずに料理作りや買い物などの生活体験を含めた活動を、少人数で個々の希望に合わせ、相談しながら実施した。それぞれの利用者さんが体を動かしたり、日頃出来ない生活体験をする事が出来た。（希望者のみ実施 実施状況 表1 他グループと協同実施も含む）

### (3) 個別体験

本人の希望等で外出先を決め出掛けた。他のグループとも協力し合いながら行い、それぞれの希望したものや体験させたい外出が実施出来、楽しめた様子であった。（希望者のみ実施・実費徴収 実施状況 表2 他グループと協同実施も含む）

表1. スポーツ体験等の個別活動

実施日	内 容（行き先）	参加利用者人数	職員人数
8月 9日(木)	プール（竜洋B&G）	2名	2名
9月 5日(水)	プール（福田温水プール）	4名	2名
10月16日(火)	マレットゴルフ（浜岡）	2名	2名
12月14日(金)	ボーリング （袋井グランドボウル）	4名	2名
12月17日(月)	ウォーキング（獅ヶ鼻公園トレッキングコース：磐田市）	1名	1名
2月18日(月)	料理作り（ハンバーグ・コンソメスープ・デザート）	3名	2名
2月26日(火)	買い物 （ららぽーと磐田）	3名	1名 【実習生】1名
3月15日(金)	ウォーキング （エコパウオーキングコース）	5名	3名

表2. 個別体験

実施日	内 容 (行き先)	参加利用者人数	職員人数
1 1 月 1 日(木)	浜名湖ガーデンパーク	3名	3名
1 1 月 6 日(火)	S L大井川鉄道 音戯の郷	3名	2名
1 1 月 1 9 日(月)	買い物・食事 (浜松駅周辺)	4名	2名
1 2 月 5 日(水)	買い物・食事 (浜松駅周辺)	2名	1名
1 2 月 1 3 日(木)	浜松動物園 浜松フラワーパーク	3名	2名
1 2 月 1 5 日(土)	ぼんぼこツアー (なばなの里 イルミネーション)	4名	2名
1 2 月 1 7 日(月)	獅ヶ鼻公園トレッキングコース ハイキング (磐田市)	1名	1名
3 月 1 2 日(火)	回転寿司・買い物 (磐田市内)	3名	2名

## カ ラ ー ズ

グループの主な作業活動は、クッキー作り・紙工芸・粘土細工・パン作り・菓子作りを中心に、あにまあと・工房ぱおの2グループに分かれて行った。

### (1)あにまあと

#### [1]概 要

利用者数 12名 (生活介護利用者4名、重心多機能型利用者7名、日中一時1名)  
 <車椅子11名 うち全面介助者9名、気管切開・ネブライザー吸入・経管栄養1名、胃瘻造設・経管栄養・鼻腔及び口腔吸引1名、気管切開・経管栄養・鼻腔及び口腔吸引1名、口腔吸引1名、経管栄養1名>

#### [2]活動のまとめ

重複障がいのある利用者さんを中心に、感覚・色彩等を感じる事の出来る作業を多く取り入れながら、体調に留意しつつ無理のない範囲でグループの皆が協力し合える活動を行った。

#### [3]主な作業内容 ～ クッキー作り・紙工芸・粘土細工 (小麦粉粘土) ・手芸品

##### ①クッキー作り

利用者さんを中心にそれぞれ自分の出来る工程を担当し、バザー等での販売、バレンタインデーやホワイトデー等、季節に合わせてご家庭に向けて注文販売も行った。利用者さんの活動ペースに合わせる事が難しく忙しい時期もあったが、利用者さんにとっては無理なく活動できたと思う。

##### a. 生地作り工程

バター・砂糖の攪拌、鶏卵の攪拌、生地を練る作業を行う。バター・砂糖の攪拌と生地を練る作業は、材料をビニール袋に入れることで、その感触を楽しみながら作業することが出来た。

##### b. 型抜き・成型・焼く工程

成型は主に重複障がいを持った利用者さんが行った。生地をラップに包みテーブルの上や手のひらで平らにするが、程よい厚みで出来る様になった。型抜きを自分の仕事として前向きに取り組む利用者さんの姿もみられたが、厚みにばらつきもあり注意を促しながら進めた。

### c. 袋準備・袋詰め工程

シール貼り、クッキー・乾燥剤の袋詰め、袋綴じを流れ作業で行った。袋詰めは補助具を、袋綴じはシーラーを使用して、重複障がいのある利用者さんを中心に職員と一緒にいった。袋綴じは職員の声掛けで確実にすることが出来た。

透明な袋に飾りリボンは見た目にも良く好評であった。飾りリボンを作る作業ができる利用者さんがいて、仕事の幅が広がり喜びとなった様である。

### ②紙工芸

色彩を感じることの出来る作業を行うために折染めを取り入れ、それをノート・鉛筆の製品にし、紙すきで作った葉とセットで販売。その他、利用者さんの連絡帳・B5版ノートやメモ帳、爪楊枝入れ、グリーティングカードも販売した。新製品として、壁掛けやペン立てなども製作した。

折染めは個々の自由な感性で染めるため個性的な製品が出来上がった。ノート・鉛筆の糊付け作業は、重複障害のある利用者さんに限らず、それ以外の利用者さんも一人でやるのは難しく、大半の人が介助や確認を必要としていた。

紙工芸製品はバザー等で幅広い年齢層の方に購入してもらった事が出来た。

### ③粘土細工

マグネット製品を中心に製作した。動物や野菜・花・食べ物など身近な物の形をマグネットに貼り付け、ガチャポンのケースに入れ販売しており子供さんに好評である。製品のケース内転倒防止のためセロテープで補強し対応した。近隣のお店や利用者さんのご協力によりケースの入手はできた。小さな細工を利用者さんが作ることは難しいが、職員と一緒に、指先や手のひらで平らにしたり丸めたりし、作る楽しさを味わえた。

### ④タオルたたみ

袋井整体さんから依頼されているタオルの洗濯とたたむ仕事も定着してきている。枚数が多く、利用者さんは乾いたタオルをたたむ工程のみの関わりになっているが、タオルの感触や仕事の充実感を感じている様子がみられた。

## [4]その他の活動

### ①朝・帰りのミーティング

毎日、利用者さんが交代で司会をして進行。出欠席の確認やその日の活動内容の確認をしたり、その日の反省・感想等を話してもらう様にした。一日の活動を自分の意思で選択できる利用者さんが増え、あにまあと以外の活動にも積極的に参加する姿もみられた。

### ②散歩・外気浴・足浴

出来るだけ外の空気に触れられるよう、体調に注意しながらはまぼう周辺の散歩・玄関前での外気浴を行った。利用者さんの数に対し職員の数が少ないため、車椅子利用者のマンツーマン対応が必要となる散歩は一度に全員が出ることは難しく、短時間の交代で出ることとなった。また長い時間外気にあたり疲れしてしまう利用者さんも居たため、散歩を短い距離で済ませたり室内で待っている事もあった。又、歩ける利用者さんが車椅子を押すなど、他グループの利用者さんとの関わりもあり仲間意識の向上が見られた。

冬季は車椅子利用者さんを中心に、足浴（場合によっては手浴）を多目に行い、体を温めると共に全身の緊張を和らげる様にした。他グループからの希望者もあり、リラックスした時間を過ごすことが出来た。鼻歌がとび出す利用者さんもおり、皆喜んでいた。

### ③レクリエーション

利用者さんから自分のやりたいものを聞いたり、職員が出した複数の選択肢の中から利用者さんが選んでいった。普段あまり体を動かす機会の少ない人たちが多いため、ペットボト

ルボーリングやトランプ・百人一首（坊主めくり）・すごろくゲームなど室内でも楽しめることを行った。音声を楽しむCD紙芝居も内容を毎回利用者さんに選んでもらい、リラックスした時間を過ごしながら楽しむことが出来た。

#### ④外出・外食・納涼会

ボランティアさんの協力を得ながら、グループ外出（竜洋海洋公園・5月）、納涼会（はまぼう・8月）、年度末の食事会（はまぼう・3月）を行った。

納涼会は今年で8回目となり、グループの恒例行事となっている。夕食のカレー作りや花火など夜までの活動であるが、事故もなく皆楽しそうに参加出来ていた。納涼会の延長を利用し、今年度は初めて時重心利用者さん2名の宿泊を実施した（はまぼうにて）。初の試みであったが、家庭では出来ない体験が出来たようでご家族も喜んでいた。

#### ⑤個別外出

- ・磐田市内ドライブ（田原緑地）…2名 5月
- ・つま恋（プール）…1名 8月
- ・名古屋港水族館～電車体験～（名古屋）…1名 10月
- ・うなぎパイファクトリー…2名 12月

#### ⑥ふれあい体操

月2回、スポーツグラマーによる柔軟体操やマッサージ・触感覚運動・関節運動を行い、心身の緊張をほぐしリラクゼーションを促した。リハビリを兼ねたゲームや工作は利用者さんが楽しんで参加することが出来た。職員は、利用者さん個々の障害程度に合わせた体操の仕方や注意点等を教えてもらい対応した。

#### ⑦リフレクソロジー

月3回、1回に3人（一人約30分）リフレクソロジストによる足裏マッサージ（施術前には足浴を実施して足を温めておく）を受け、リラックスした時間を過ごす事ができた。足裏刺激が良い効果となっている。

#### ⑧食 事

個々に食べやすい形容を探り、刻み食（みじん切り・小口切り・一口大）やミキサー食の対応をした。

## (2)工房ぱお

### [1]主な作業内容

#### ①パン作り

- ・各利用者さんが「買出し」「計量」「粉ふるい」「袋入れ」「販売」等に取り組んでいる。
- ・現在、15、6種類を作成。冷凍生地を利用したパンは今年度は職員体制の都合により販売できなかった。
- ・定期販売 水 … 第1週以外→喫茶ペンギン（iプラザ内）  
木 … はまぼう・そるとぽっと販売
- ・各種バザー、地域交流会にも出品した。

#### ②菓子作り

- ・一人ひとりが、作業の手順を覚え、自分の得意分野を主に担当しながら作業できていた。また、新たな作業工程にチャレンジした利用者さんも数名見られる。シーラーによる「袋しめ」は、職員と声を掛け合いながらであるが、袋入れは、ほとんどの利用者さんが一人で行なうことができていた。また、袋の準備（シール貼り・スタンプ押し）も以前よりスピーディーに仕上げられるようになっている。

- ・「クッキー」「パウンドケーキ」「マドレーヌ」「シフォンケーキ」「ブラウニー」「くるみとレーズンのカップケーキ」「チョコチップマフィン」
- ・「黒ごまプリン」「レアチーズケーキ」「ゼリー」（夏季限定）
- ・各種バザー、地域交流会での販売を行なった。

### ③内 職（ブリヂストン）

自分たちで協力しながら作業を進めることができ、昨年より「準備や片付けをする」という意識も強くなって積極的に取り組むことができるようになった。

## [2]その他の活動内容

### 個別外出

グループの方同士でなく、他のグループの利用者さんや職員とでかける人もあり、普段とはまた違った楽しい外出となったように思われる。

8月	エスパルスドリームプラザ	2名
	つま恋（プール）	1名
10月	名古屋港水族館	1名
12月	ぼんぼこツアー（なばなの里イルミネーション）	2名
3月	回転寿司&買い物	1名

### グループ活動

9月	宿泊体験	昨年好評だった「竜洋オートキャンプ場」を利用した宿泊体験を実施した。今回は、他グループの利用者さんと一緒に行かない、いつもと違う雰囲気の中でみんな楽しむことができていた。
3月	たこまん工場見学&外食	今年はお菓子作りを見学する為に、たこまんの工場に出掛けた。作業でお菓子作りを行っているということもあり、充実した時間を過ごす事ができた。外食は初めて中華料理店へ行き、みんな満足そうであった。

## 5. 土曜日レクリエーション

土曜日の通所日を利用して、レクリエーション的活動を、年間8回行った。

工夫したお菓子作りや参加者全員と一緒に楽しめる企画が多く、利用者さんの笑顔や笑い声が印象的であった。

日付	内 容
4/28	柏餅作り
6/23	流しそうめん
7/14	かき氷・らくがきせんべい作り
8/11	水遊び
8/18	水遊び
9/1	らくがきせんべい作り
9/29	ミニ運動会
3/9	お菓子作り（カップケーキデコレーション）

## 6. 行事・バザー報告

月	行 事 等	参加者		バ ザ ー 等	参加者	
		はまべ会	ボラ		利用者	はまべ会
4	年度始めの会(2) 個別面談	○				
5	個別面談	○		磐田学園わかばまつり ヤマハジャンボリー(20)	○ ○	○
6	ウォーキング( ) 大掃除( )	○ ○		磐田北高校文化祭( )	○	呼びかけ
7	開所記念日(2)			ふくでふれあいまつり( )	○	○
10	地域清掃 地域交流会(27)	○	○	さわふれ交流会(未定) 地域交流会不用品バザー		○
11				フェスティバル豊田( ) 光る子まつり( )	○ ○	○ ○
12	大掃除( ) ヤマハ労連観劇( ) ふれあい作品展( )	○ ○	○	縁がわ作り( ) 施設製品即売会( )	○	
1	新年会・成人を祝う会(7)					
3	年度納めの会・感謝の集い		○			
《備考》 ・グループ活動: 外食、外出等随時実施。(ボランティアさん参加) ※料理作り・スポーツ; 各活動グループ毎に随時実施。 ・個別体験: 個人の希望に沿って時期・場所等を設定。				《毎日販売》 ・アプレ・ゲール ・山大園 ・プラザ ・そるとぼっと販売所 《その他販売》 ・はまぼう販売、観音寺販売 ・ドルチェ倉庫販売(3, 6, 9, 12月) 担当: 坂本・辻堂・松・そ		

## 7. 音楽活動

### (1)音楽療法

2グループに分かれて月に一度ずつ音楽療法士が中心となり実施。個々の障がいに合わせて工夫がなされており、参加者は自分で選んだ楽器を使ってリズムや音を感じたり、ハンドベル演奏・歌・ボールや体を動かすリトミックなど、音楽を通して普段の活動では味わうことのできない体験を楽しんでいた。

### (2)ともしびコンサート

音楽活動をしているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽(歌)や楽器に親しむ機会を設け、室内コンサートを開催していただいた。童謡からクラシックまで幅広い音楽に触れられる機会、参加者は演奏を聴いたり皆で歌ったり、楽しく過ごすことができた。

## 8. 環境美化委員会

(1) 2カ月に1回の委員会は、開催できないときもあったが、必要に応じて改善点等を話し合うことができた。細かい点についてはもう少し話し合いを行い、再確認をしていく必要があった。建物も増えたが、内外の身近な部分で見落とされている場所があるため、日頃の環境美化についても職員一人一人が意識して取り組めるよう、委員を中心に呼びかけをしていく必要がある。また、室内、倉庫などの整理整頓も日頃から心がけていく必要がある。

毎日の清掃については、職員一人一人が、美化につとめ、協力しながら行う事が出来ているが、細かい部分については、引き続き呼び掛けを行い周知徹底をしていく必要がある。

(2) 大掃除については、年度始めにアンケートをとり、希望日に合わせ参加の呼びかけをした。家庭へのお知らせや準備、事前に担当場所等を知らせたことで、戸惑う事なく進めて行くことができた。今年度も冬季大掃除を金曜日を実施した。通常日課ということもあり(職員も含め)、全体的に参加者が少なかったが、それぞれ協力しあい、全体的にスムーズに行う事ができた。

(3) ゴミの分別については、徹底されつつあるが、まだまだ曖昧なところがある。再度確認し、より細かい部分にまで注意が行き届くよう、伝えていく必要がある。また、クリーンボックスを設置することで、大きなゴミの処理もスムーズに行うことができた。

来年度からは、古紙回収日が廃止されるため、古紙の回収方法についても、検討していきたい。

## 9. 安全委員会

### (1)利用者の方の安全確保

- ・ 委員会内での話し合い、事故防止・再発防止策検証チェックを行い、事故防止に努めるよう情報収集、安全管理体制の見直しを行った。
- ・ 「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計結果については、別紙参照。

### (2)防災

- ・ 避難訓練を毎月1回、避難訓練計画に合わせて実施。
- ・ 法人全体で防災内部研修の実施や緊急時安否確認名簿作成・配布を行った。
- ・ H23年度より、各施設・事業所の防火管理者による防災担当者会議を開催し、大規模災害時の対応等について協議を重ねるとともに、発電機、MCA無線機などの備品等の整備も進めている。

### (3)施設設備（環境）の保全管理

- ・ 設備自主検査を9月、3月に実施。  
不具合箇所 … 詳細については、建物・設備等点検結果表ファイル参照。

### (4)安全運転管理

- ・ 春、秋の街頭指導。
- ・ 事務局だよりの連絡。

### (5)緊急事態への対応

- ・ 緊急事態（車両等の事故）に対しては、各職員がマニュアルに従い、速やかに対応出来ていた。
- ・ 今後も、マニュアルの検討を重ね、分かり易く対応しやすいものにしていく。

## 10. 生活・保健衛生委員会

### (1)健康診断及び記録について

健康診断は春と秋に実施。検査当日の欠席者については、レントゲン撮影は個々にかかりつけの病院等へ行き全員実施した。検尿・検便は随時まぼうで行い、保菌検査は職員、クッキーやパン作業に関わる利用者さん、食事介助に関わるボランティアさんにも毎月実施した。

血圧については、健診当日は慌しさの影響を受け正しい数値が測定できない場合もあるため日を改め測定した。

健康診断の結果については、嘱託医に確認・捺印を頂き各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。（通院については家庭にお任せした。）

記録については、個人表、一覧表、嘱託医訪問記録、検査結果等、随時記入するようにした。

服薬は変更があったら随時書き換え記録するようにした。

### (2)体重測定について

毎月月初めに実施した。連絡帳に体重表（カード）をはさみ、家庭に連絡し確認印をいただいた。測定の結果を健康チェックの目安とし、食事量を加減したり通院時に持参する家庭もあった。

### (3)機関誌について

保健だよりは、必要に応じて随時《お知らせ》として発行した。

ノロウイルスやインフルエンザについては、緊急のお知らせ（情報公開や予防法）等を各家庭に配布し、注意を呼びかけた。

### (4)衛生面について

身だしなみについては、連絡帳等で家庭と連絡をとり対応しているがまだ徹底されていない。改善の必要な人がいるので、引き続き本人や家庭に働きかけをしていく。

ハンカチ所持を呼びかけていることで個人での所持率は高まったが、今後も声掛けが必要。

トイレでのスリッパへの履き替えが定着していない人もいるので、今後も対策が必要。

寝具については布団、毛布の天日干しがあまりされていなかった。

(5)病気予防について

食中毒や風邪・インフルエンザの予防のため外から帰った時や、食事の前とうがい・手洗いの声掛け・マスク着用を促した。そのため職員が率先して行なう姿勢が多くみられた。

ノロウイルスに関して汚物処理のための消毒薬(3ヶ月ごとの交換)の留置、週一回施設内の消毒薬での拭き掃除を徹底した。

部屋の換気や加湿器の使用を心がけ衛生面に注意した。

感染症についての職員研修を行い、施設内での感染予防を促した。

(6)防虫防鼠について

環境美化委員会にて大掃除やバルサン実施。

(7)日用品・医薬品について

トイレットペーパーやボックスティッシュ等、在庫確認の上、随時発注するようにした。医薬品については、使用期限の確認と在庫チェックの上、必要に応じて発注・補充した。

個人で昼に服薬がある利用者さんについては、服用の確認と声掛けを行った。

(8)着替えについて

最近では、利用者さん一人ひとりが自分の着替えを持ってきているため、あまり貸し出すことはなかった。

(9)歯磨き・うがいについて

各自で食後の歯磨きやうがいを行っていたが、全員が出来ているわけではない。うがいのできない利用者さんもいるが、食後にお茶を飲むだけでも良いと思う。

仕上げ磨きについても習慣づけられている利用者さんはいるが、全員に目が届いているわけではないため、今後も声掛けをしていく。

## 11. はまちゃん会（利用者本人会の代表者会）

土曜日の通所日を利用して10回開催した。

恒例となったはまちゃん会主催でのクリスマス会や豆まき会もスムーズに企画・実施する事ができ、利用者さんの自信や楽しみにつながった。

第1回 4/7(土)	今年度の計画	第6回 12/22(土)	クリスマス会反省 豆まき会について(その1)
第2回 5/26(土)	地域交流会について	第7回 1/12(木)	豆まき会について(その2)
第3回 11/17(土)	クリスマス会について(その1) 豆まき会について	第8回 1/19(土)	豆まき会について(その3)
第4回 12/1(土)	クリスマス会について(その2) 地域交流会の反省	第9回 2/9(土)	豆まき会
第5回 12/20(木)	クリスマス会	第10回 3/24(土)	豆まき会の反省 今年度の反省

## 12. 内部研修

水曜日午後の時間を利用し、年間計画に従い研修担当で起案を立て内部研修を実施した。

平成24年度は、法人全体研修5回（口腔衛生1回、危機管理・防災について1回含む）、自己評価に関する研修1回、出張報告他、年間7回の研修活動を実施することができた。地域生活支援との兼ね合いもあり、職員全員参加は難しくなっている。

また、22年度より人事交流研修を取り入れているが、今年度は、各施設の職員体制や利用者の方の状態の兼ね合いで、実施は難しかった。それに代わるものとして、各施設からの事例・現状報告や情報交換を行い、施設間の情報共有を行った。

来年度も定期的に研修を実施して職員意欲向上に努めていきたい。

日付	内容	担当者
5/30	自立支援協議会について、支援センター・ケアホーム・地域生活支援事業の事業報告、運転について 理事長の話（合同研修会）	研修担当
8/8	防災について、危機管理について 各施設からの事例・現状報告・情報交換会 理事長の話し（合同研修会）	防災担当・安全委員 研修担当
10/10	虐待防止法についての説明 虐待チェックリストの実施、 理事長の話し（合同研修会）	研修担当
10/31	出張報告	各出張者
1/16	口腔衛生・ブラッシング指導 そるとぼつと所長の話し（合同研修会）	外部講師 生活保健委員会
3/27	自己評価話し合い	研修担当
3/30	自己評価各施設発表、虐待について グループディスカッション 理事長の話し（合同研修会）	出張者研修担当

### 13. 相談・福田チーム検討会

施設等で受ける相談については、リーダー・地域生活支援担当者を中心に、市町指定相談事業所・地域療育支援センターなどの関係機関と連携をとりながら、地域からの相談に応じる。内容は、通所に関する相談・学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談、在宅者への支援等。

また福田地区在宅者のケース検討会(福田チーム検討会)に参加。地区内の各機関が一致した認識をもつことができ、協力して地域生活支援を行っていく土台作りの場となっている。今年度は5回実施した。

### 14. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会(専門部会)をもって構成されている。

中遠地域自立支援協議会への参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて職員も参加した。

作業部会(精神部会、知的・身体部会)に参加するとともに、知的・身体部会では、「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」各専門部会に参加、そして「地域生活支援専門部会」では、7つの課題別検討会～「グループホーム・ケアホーム」「ショートステイ」「重心の在宅支援」「相談支援事業から見える在宅支援」「送迎サービス」「余暇支援」「自閉症・行動障害」～にそれぞれ積極的に参加。この内、「重心の在宅支援」「自閉症・行動障害」の担当及び「地域生活支援専門部会」全体のまとめ役等を福浜会が請け負っている。

この内、「重心の在宅支援検討会」では、相談支援事業所とおおふじ学園と協力して、平成24年11月12日に「普通に生きる」(生活介護事業所であら〜と)の上映会を開催。また重心に関わっている事業者から、現在あるサービスに関するご本人・ご家族への情報発信として、平成24年11月29日に事業所説明会を開催した。どちらも大きな反響があった。

この「重心の在宅支援検討会」は、平成25年度より重心在宅支援専門部会としてスタートする。

## 15. 重症心身障害児(者)の在宅支援に関する会議

下記の会議に参加。重心ネットワークは、はまぼうがまとめ役となり、西部地区相談支援事業所の協力の下、静岡県西部地区ネットワーク幹事会を開催。ただし、福祉・医療・教育・当事者団体などの各分野から多くの方が参加する西部地区全体の会議が開催できなかった。次年度は、各地区の育成会、県や市町の行政機関も交え、在宅支援サービスの充実に向けた取り組みを始めたと考えている。

静岡県主催：「重症心身障害児(者)在宅支援推進連絡調整会議」

「重心看護従事者養成研修」

「重心介護従事者養成研修」

「重心ケアマネジメント従事者養成研修」

県知協主催：「重心ネットワーク会議」

## 平成24年度そるとぼっと活動報告

### 1. 在籍者の状況

平成24年度の定員20名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

月		24年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	25年	1	2	3	合計
入所		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
月末 在籍	男	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	19	
	女	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	計	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	22	

【在籍者障害程度区分】 区分6→3名、区分5→5名、区分4→9名、区分3→5名

### 2. その他の利用状況

月		24年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	25年	1	2	3	合計
特実 支習 等生	延人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実研 習修 ・生	延人員	0	6	8	2	0	6	8	18	0	8	4	0	60		
	利用日数	0	3	4	1	0	3	4	6	0	4	2	0	27		
見 学 者	件数	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	1	1	7		
	人員	2	0	0	2	3	0	0	2	0	0	1	3	13		
ポテ ライ ンア	延人数	19	13	12	19	9	5	11	0	5	0	8	0	101		
	特記							地域交流会				ボラン ティア感 謝会				

### 3. 活動全般の状況

4月に袋井特別支援学校を卒業した2名の利用者さんが加わり23名になった。翌年3月末、ご本人の身体状態に適した事業所に移るため、1名の利用者さんが退所された。

生活リズムの変化や環境の変化から影響を受けやすい利用者さんが多いので、なるべく一人一人が落ち着いて過ごせるように配慮した。3つのグループに分かれて活動したことで、グループ毎に特色のある活動を展開して行けたが、活動の幅を広げるためグループを超えての支援体制や情報の共有化も意識した。

作業活動では、受注作業と自主製品作り、お茶の注文販売と販売所での自主製品や焼き菓子等の販売を状況に合わせて行った。作業以外の活動では、外出や散歩、体育館で身体を動かす機会を定期的に設けたり、宿泊体験や個別体験、水泳、ボーリング、カラオケ、調理、音楽鑑賞等皆さんがそれぞれに楽しめる活動を実施した。

開所6年目になり、利用者さんは毎日繰返し活動することで見通しが持て、安心して過ごせるようになった。その反面、目先を変えたり新たな気持ちで参加できるような活動が必要だと思われた。

利用者さんの平均年齢が26歳（23人中20人が25歳以下）で、ほとんどの方が思春期から青年期にかけ情緒面で不安定になり易い年齢である。また特別支援学校を卒業し生活スタイル

が変わり、兄弟の進学や独立、祖父母が体調を崩したりして家族構成に変化がある家庭も見られた。家族が利用者さんに関わる状況が今までと比べ少しずつ変化してきたことも、利用者さんにとっては影響がある事なのではないかと感じた。

(1). 作業活動について ※グループに関係なく利用者さんの希望する(得意とする)作業を行った。

① キャップ分離作業(ブリヂストン)

部品をキャップ、カバー、ウレタンに分離する作業。各グループに得意とする利用者さんがいるので、その人たちを中心に継続して取り組んできた。

② 割箸袋入れ(藤本商会)

紙のさやに割箸を入れる、それをビニール袋に入れる、爪楊枝を入れる、ビニール袋を閉じる、おしぼりをポケットに差しこむ、という工程があるが、利用者さんができる工程をそれぞれ分担して行っている。

③ ゴムのバリ取り(ゴトウ加工)

形成したゴム部品をばらし、余分なバリを取り除く作業。取り組む方が徐々に減ってしまっただけ、年度途中で取り止めた。

④ 乾電池のパッケージ剥がし(倉沢製作)

2本ずつビニールでパッケージされている単3乾電池をばらして箱に戻す。興味を持って関わる方が多く、職員の補助なしでもほぼ完成できた。中断されていた作業が再開したため年度の途中から始めた。

⑤ ポスティング(アドポスティング)

2ヶ月に1~2回、磐田駅南地区まで出かけ配布物をポストに投函する。天候や職員配置に左右されるが、利用者さんの気分転換にもなり交通量の少ない地域は、散歩を兼ねながらなるべく多くの利用者さんが交代で参加できた。

⑥ キャンドル作り(自主製品)

主に材料のロウを砕いたり、砕いたロウを型に入れる工程で参加し、手作りのキャンドルを作った。きのこキャンドルや可愛い物に人気があった。利用者さんの絵の付いた器に流し込んだキャンドルが停電時に役に立ったと好評だった。

⑦ ポストカード作り(自主製品)

パソコンのペイント機能を使い、季節に合ったカードや新たなテーマを決めて新作をこつこつと作成した。

⑧ ハンガーモップ作り(自主製品)

ワイヤーハンガーに利用者さんのセンスでこつこつと毛糸をくくりつけ、成型した後目鼻をつけて表情豊かな「ハンガーモップ」が出来上がった。

⑨ エコビーズアクセサリ作り(自主製品)

利用者さんが描いたり色付けしたペットボトルをオープンで焼きビーズを作り、ストラップやブレスレットを作成した。

⑩ お茶注文販売

新茶、水出し煎茶、年末年始のシーズンに注文販売を行った。

⑪ 製品販売

特にパン販売は好評だったが、事情により販売が中断してしまったことはとても残念だった。iプラザの委託販売では、少しずつだが継続して売上げがあった。

(2). 作業以外の活動について

① 施設行事

- ・ ファミリーウォーキング(5/26)

グループに分かれ家族と一緒にエコパを散策し、みんなでお弁当をいただいた。利用者さんにご家族36名が参加。

- ・ ニューススポーツ体験(7/20)  
南島体育館を会場に磐田市体育協会の指導員さんに来ていただき、ニューススポーツを体験する。ルールにとらわれず出来そうなものを選んで楽しむことが出来た。利用者さん16名が参加。
- ・ 宿泊体験 (7/27~28、8/3~4、8/24~25、9/7~8、9/21~22)  
希望者22名、その内19名がそるとぼつとに宿泊した。5グループに分け実施し、大衆浴場に出かけたりファミレスで好きなメニューを食べたりして楽しく過ごした。
- ・ 流しそうめん(8/11)  
家族と一緒に、駐車場で流しそうめんを行う。葡萄、プチトマト、プチゼリー、菓子も流して楽しむ。利用者さんと家族37名が参加。
- ・ ミニ運動会(9/29)  
南島体育館を借りて、はまぼうと合同で行う。楽しく汗を流した後は農環センターでお弁当をいただく。利用者さん17名、民生委員ボランティアさん5名が参加。
- ・ ヤマハ労連チャリティー公演(12/11)  
劇団四季「ガンバの冒険」にご招待いただく。普段体験できないダイナミックなステージを楽しむことができた。利用者さんとご家族(付添)22名が参加。
- ・ クリスマス会(12/19)  
歌やクリスマスプレゼント、苺ロールケーキをいただいて楽しむ。後半はそれぞれの利用者さんが楽しめるように別のプログラムで過ごした。利用者さん22名、民生委員ボランティアさん6名が参加。
- ・ 新年(成人)を祝う会(1/9)  
今年の抱負を皆で話し、新成人1名をお祝いした。後半はグループに分かれ初詣に出かける。利用者さん21名が参加。
- ・ ボランティア感謝の会、豆まき(2/9)  
ボランティアさんに皆で感謝の気持ちを伝えて記念品を差し上げる。後半はボランティアさんと一緒に豆まきを楽しむ。利用者さん20名、ボランティアさん7名が参加。

## ② 個別体験

利用者さんの希望に沿って一緒に楽しめる内容を計画し、少人数で出かけた。

- ・ 5/18 豊橋総合動植物園~JR利用(豊橋) 3名参加(付添2名)
- ・ 5/22 「SL・清水港ミニクルーズ・寿司バイキング」バスツアー 4名参加(付添2名)
- ・ 6/28 東海大学海洋科学博物館(清水) 2人参加(付添2名)
- ・ 10/5 エスパルスドリームプラザ(清水) 3名参加(付添3名)
- ・ 11/16 フラワーパーク・バイキング(舘山寺) 3名参加(付添3名)
- ・ 11/27 雄踏総合公園・道の駅潮見坂(湖西) 4名参加(付添3名)

## ③ 料理作り

主にグループ活動の中で、ロコモコ丼、カレーライス、焼きそば、ホットケーキ、ロールケーキ、スイートポテト等を作って食べた。

## ④ スポーツ・文化活動

利用者さんの希望を確認し、水泳(6名)、ボーリング(4名)、カラオケ(8名)をそれぞれ個別またはグループで楽しんだ。

## ⑤ その他の余暇活動

創作活動で壁面作成や季節に合わせた工作等を行い施設内に掲示した。体力作りも兼ねてグループ毎に外出やウォーキングを毎週実施したり、今年度から近くの体育館を定期的に借用し、ボール遊びやバドミントン等身体を動かした。はまぼうで行われる「ともしびコンサート」に希望者が参加した。

行事以外のレクリエーション的な活動は主にグループの中で行い、くじ引き、絵画、料理作り、水遊び等を行った。

#### 4. グループ活動報告

##### **せさみグループ** (男性9名、女性1名)

生活面で見守りや身体的介助が必要な方が多く、ご本人の希望も聴きながら各々のペースに合わせて無理のない範囲で作業や余暇的な活動を行った。

###### ①作業活動

ブリヂストン、ゴムのバリ取り、自主製品作成（キャンドル、ポストカード、ハンガーモップ等）、乾電池のビニール剥がしの作業を主に行った。

###### ②その他の活動

火曜日午後の外出、木曜日午前の体育館での活動、金曜日午後の活動場所の掃除を継続して行った。その時々体調や状況に合わせて活動内容は柔軟に対応した。

###### ③グループ活動

毎月末の金曜日に「お楽しみ」として、誕生日会を兼ねたお茶会を行った。前期と後期に1回ずつ、皆さんの希望を取って食事を外注して施設で食事会を行った。また、11月にはお菓子作りを行った。

##### **ばせりグループ** (男性5名、女性2名)

個々に強い拘りや思いがあり、状況の変化にも弱い方が多いため、それぞれのペースで作業や活動に取り組めるよう配慮した。なるべく個別の対応を心がけたが、利用者さん同士がお互いの行動に影響を受けてしまうため難しい場面も見られた。また作業中は落着いている人が多いので、作業の時間が多くなってしまったが、自分自身の強迫観念で作業をしていると思われる方もいるため身体を動かしたり気分転換できる活動が出来ると良い。

###### ①作業活動

主な内職として割箸、ブリヂストン、乾電池、バリ取りを行い、期間の仕事としてポスティングを行った。

###### ②その他の活動

年齢も若く、身体を動かして体力を発散させたい人が多いが、予定の切り替えが難しく不安定になってしまうので、週1回木曜日の午後の外出に留まってしまった。

###### ③グループ活動

毎月お楽しみとして、昼食作りやDVDを見たり、金曜日の午後にお茶会やレクリエーションを行った。親子親睦会を予定していたが、今年度は実施することができなかった。

##### **みんとグループ** (男性6名)

比較的静かな環境の中、それぞれのペースで作業や活動に取り組んでいた。前年度同様、食事の配膳や掃除など、それぞれが役割を持ち取り組む姿が見られた。また、その他のことでも自発的に気が付いたことを手伝ってくれる姿が多く見られた。

体制上、主に1名の職員で関わらざるを得なかったが、より良い支援には複数の職員で関わるほうが望ましいと感じた。

###### ①作業活動

割り箸袋入れ、ブリヂストン分離作業、ポスティング、電池ビニール剥がし作業、自主製品作りを主に行う。また、ブリヂストンや電池作業の納品に出掛けた。

###### ②その他の活動

週1回の外出や、毎週木曜日に体育館活動を行う。月1回ともしびコンサートに参加した。また、毎週金曜日に掃除を行った。草取りや古紙等の処分にも出掛けた。

###### ③グループ活動

お菓子作りや公共交通機関を利用して掛川城周辺に出掛けた。また、浜松市にある施設「ぐっと」に昼食を食べに行った。

## 5. 委員会活動

### ①保健委員会

- ・家庭と連絡を取りながら利用者さんの日々の体調の把握を行った。
- ・毎月、体重測定を実施した。
- ・健康診断は、はまぼうや松ぼっくりへ出向き、採血やレントゲンを行った。健康診断が苦手な利用者さんがいるため配慮が必要。
- ・必要に応じて保健だよりの発行をし、流行性疾患への注意の呼びかけを行った。
- ・職員合同研修では歯科衛生士さんから口腔ケアの仕方について学んだ。

### ②環境委員会

家族と協力して、12月に大掃除(ワックスがけ)を実施する。6月にはバルサンを使用し、害虫駆除を行った。夏場は活動中に利用者さんと一緒に草取りを行う。また、施設裏の土手の草刈りも行った。ごみは分別してはまぼうに協力を依頼し、古紙やペットボトルは活動の中で処分に出掛けた。室内の臭いと衛生面が気になるため、水曜の午後を中心に掃除、手すり等の消毒に気を配った。

### ③安全委員会

利用者さんの事故予防と安全運転の確認を毎月行ない、「ヒヤリハット」を提出をすることで事故防止の意識を高めた。年末に利用者さんを乗せた状態で車輻事故を起こしてしまった。幸いにも軽傷で済んだが、気を引き締め安全運転するように職員に周知した。活動中の利用者さんの事故については利用者さんが不安定な時に起きてしまう事が多かったが、職員の配慮があれば防ぐことが出来たと思われるので、今後につなげて行きたい。

毎月、火災または地震を想定した避難訓練と総合防災訓練(11月)を実施し利用者さんと職員の防災への意識を高めた。防災担当者会議(防火管理者出席)を定期的に行ない、法人内の防災対策の見直しを行った。

10月と3月に設備自主検査を実施。壁等の傷みが増えてきたが、応急処置で済ませ今のところ問題はない。

[ヒヤリハット] 8件(6名) ※同じ人の重複あり

内訳: 所在不明(1)、飛び出し(1)、物損(1)、自傷(1)、転倒(1)、対物(1)、その他(2)

[事故] 7件(7名) ※同じ人の重複あり

内訳: 器物破損(1)、自傷(2)、転倒(1)、物損(1)、車輻(1)、その他(1)

## 6. 地域社会との関係

- ① 広報活動として、「ふくはまの風」を法人施設と協力して発行した。「そるとぼっと通信」の発行が予定より減ってしまった。
- ② 販売所に来ていただいた地元のお客様と触れ合ったり、近隣を散策して地元の方への挨拶を積極的に行なった。
- ③ 地域の民生委員さんをはじめボランティア及び実習生の方を受け入れ、利用者さんと交流していただくことで理解を深めるよい機会になった。
- ④ 松ぼっくりで行われた「地域交流会」に参加した。地域の住民の方や大勢のボランティアさんのご協力をいただき、音楽や模擬店を中心とした楽しいイベントに参加できた。

## 7. 家庭との関係

連絡ノートで家庭の様子を伺ったり、日中の利用者さんの様子を伝えたりして、日々の情報交換を行った。必要に応じて電話連絡や自宅を訪問した。個別支援計画作成時に全ての家庭と面談を実施し、また個々に家庭からの相談を受け面談を実施した。

家族と共に次の行事を実施した。ファミリーウォーキング(5月)、流しそうめん(8月)、地域交流会(10月)、大掃除(12月)、活動参観・懇談会(3月)を実施した。利用者さんが若い家庭が多いため、家族と交流を図り意見交換を行った。

## 8. 苦情解決体制

苦情の受付はなかったが、「こんな一言聞きました報告書」として2件（①送迎時の職員の対応について、②駐車場の排水について）の内容を受付た。日頃より家族や近隣の方の気持ちや言葉に耳を傾ける姿勢を持っていきたい。

## 9. 会議・職員研修の実施

より質の高い支援を実現するため、職員個人の人間性や専門的知識の獲得と技術の研鑽はとても大切なことである。そのため積極的に外部の職員研修等へ参加したり内部研修を実施した。

更に、研修から得た知識や技術を生かす上で、職員のチームワークがとても重要になる。日常的に情報の交換を密に行い、支援への共通理解を深めるため職員会議・ケース会議・グループ会議を定期的また必要に応じ実施してきた。

内部研修としては、職員会議の中で、重要文献の読みあわせや出張報告を行った。また法人職員合同研修については、他施設担当者と連携をとり、臨時開催も含め年5回実施した。

各施設の研修担当者による合同会議を重ね、合同研修会のあり方や自己評価等について検討を重ねた。

日付	内 容	担当者
4/4	ケース検討	研修担当
5/30	<第1回合同研修会> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立支援協議会 説明報告</li> <li>・ ケアホーム、地域支援事業</li> <li>・ 地域療育等支援センター事業報告</li> <li>・ 安全運転管理について</li> <li>・ 理事長講話</li> </ul>	研修担当 事業担当 理 事 長
7/4	ケース検討	研修担当
8/8	<第2回合同研修会> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災について</li> <li>・ 各施設事例発表</li> <li>・ 理事長講話</li> </ul>	防火管理者 各施設担当職員 理 事 長
9/19	カウンセリング講座について 意思決定支援について	出張者 管 理 者
10/2	「支援の心得」について	管 理 者
10/10	<第3回合同研修会> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 虐待防止法について</li> <li>・ 虐待チェックリストについて</li> <li>・ 理事長講話</li> </ul>	管 理 者 研修担当 理 事 長
10/17	ケース検討	研修担当
11/16	ケース検討	研修担当
1/16	<第4回合同研修会> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口腔衛生について</li> </ul>	歯科衛生士池田
2/20	「ジェントルティーチング」について	出張者
3/6	「安心感のある関わりはどうしたらできるのか」読み合せ	研修担当
3/13	自己評価についてまとめ	研修担当
3/30	<第5回合同研修会> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価報告</li> <li>・ 虐待について</li> <li>・ 事務より</li> <li>・ 理事長講話</li> </ul>	研修担当 出張者 田中友梨 理 事 長

## 10. 地域生活支援

地域生活支援事業やライフサポート事業を利用して、施設利用者さんの時間外の支援及び地域の方の日中活動や児童の放課後支援を法人内施設と連携して受け入れを継続した。

## 11. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

各相談事業所等の関係機関、市町の担当者と連絡をとりながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。内容は、医療的ケアを含めた支援について、在宅生活を支えるための各支援について、特別支援学校卒業後の進路について、就職活動等について相談があった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

## 12. 中遠地区自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会の知的・身体部会に6回参加した。各関係機関から代表者が出席し、地域の抱える課題について検討及び情報交換を重ねた。知的・身体部会では、「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」各専門部会に参加、そして「地域生活支援専門部会」では、7つの課題別検討会～「グループホーム・ケアホーム」「ショートステイ」「重心の在宅支援」「相談支援事業から見える在宅支援」「送迎サービス」「余暇支援」「自閉的傾向・行動障害のある方の在宅支援検討会」～にそれぞれ積極的に参加。この内、「重心の在宅支援」「自閉的傾向・行動障害のある方の在宅支援検討会」の担当及び「地域生活支援専門部会」全体のまとめ役等を福浜会が行っている。

「自閉的傾向・行動障害のある方の在宅支援検討会」は、松ぼっくりとそるとぼつとが担当施設になり、アンケートと検討会を実施した。

「重心の在宅支援」については、平成25年度より「課題検討会」から「専門部会」として出発する。

# 平成24年度松ぼっくり活動報告

## 1. 在籍者の状況

平成24年度の定員40名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分	月	24年									25年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所		1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
退所		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
月末 在籍	男	30	30	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	
	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
	計	40	40	40	40	40	40	40	40	40	41	41	41	

## 日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	24年									25年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
月末 在籍	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	

## 2. その他の利用状況

項目	月	24年									25年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
特実 支習 等生	人員	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	利用日数	0	0	0	0	0	0	5	4	0	0	0	0	9
実研 習修 ・生	人員	0	0	0	2	2	0	0	7	0	0	0	0	11
	利用日数	0	0	0	24	5	0	0	7	0	0	0	0	36
見 学 者	件数	1	1	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	6
	人員	3	1	0	2	2	0	0	6	0	0	0	0	14
ポテ ライ ンア	延人数	8	9	12	8	21	8	11	4	4	9	10	12	116
	特記							地域交流会						

### 3. 活動の状況

#### 活動全般について

今年度は、パオグループの縮小、事業内容の変更と合わせて、新たな希望者の受け入れと現在利用している方の活動場所の再検討をする中で、Wish、スマイル、ビジョン、樹の4グループに再編して、内容を変更して取り組んだ1年であった。利用者さん一人一人の関係性やそのことに起因する様々な生きづらさや困難さにも対応しようとした1年でもあった。当初、活動場所が定まらず、本人はもちろん、家族の方にもご心配を掛けることになってしまったが、そのスマイルグループはもちろん、それを支える形で他のグループも協力して動いた年となった。

それぞれのグループのなかで、職員の異動や活動内容の変更等もあり、いかに利用者さんの持つ社会性や様々な人と関わっていく力みたいなのを引き出していか、どう一緒に乗り越えていくか、課題も浮き彫りになったように思う。自己選択、自己決定権を保障することはもちろんであるが、その上でいかに地域や社会のなかで、折り合いをつけながら暮らすことが出来るか様々な経験が必要であることを感じた。

仕事については、仕事量が減少したり、その内容が変わったりしたが、引き続き(有)フスマ商会、コーケン工業(株)といった企業内での仕事、さくらの苑、於保老健センターでのベッドメイキングの仕事、そのみ園でのしいたけ収穫、公園清掃といった外部作業に取り組んだ。又、グループごとに請負の仕事やリサイクル、自主製品づくりを行い、1日のうち少しの時間でも自分の仕事に向き合う機会をつくった。

午前は作業活動を行い、午後は散歩やレクリエーションを行う点は、今年度も同様であった。しかし、地域に積極的に出て活動するという面では、不十分であった。利用者さんにとってイキイキと活動できるものを、次年度も探していきたいと思う。また、来所してくださるボランティアさんは、地域の方を中心に定期的に参加していただき、和やかな雰囲気でも交流できたように感じている。

そのほか、今年度もグループ活動や個別の活動を実施した。

### 4. グループ活動報告

#### Wish

安心して取り組める作業、利用者さんの思いを取り入れた午後の活動等を計画する中で、本人が心地良く過ごせる環境を整えた。利用者さんとの思いを認め合う中で、関係作りを大切にしてきた。利用者さん一人一人が自分の思いを伝え、こちらの思いも伝えることで、共に気持ちの良い時間を感じることが少しずつできるようになってきた。

#### ① 作業

個々の作業場所を用意して、本人の仕事が分かりやすく取り組めるようにしている。また、本人と向き合う中で、作業時間や作業量等を調整し、気持ち良く無理なく過ごすことができるようになってきている。又、しいたけ作業については、長い年月を通し関わることによって、楽しく参加できるようになってきている。

- いちごのポット作り (鈴木農園)
- アルミ缶・スチール缶リサイクル/回収・缶つぶし・運搬 (三光)
- 自主製品作り (メモ帳・連絡ノート・観葉植物)
- しいたけ作業/週1回 5～6月、11～3月 (森町 そのみ園)
- ふすま組立て作業/週1～5回 ( (有) 静岡フスマ商会)
- お茶の委託販売 (恵松学園)

## ② 午後の活動

午後の活動は、作業の頑張りを認め、リフレッシュすることを心掛けてきた。散歩や公園で身体を動かし、ゆったりとした時間を過ごしたり、室内活動（カラオケ等）や図書館で共に楽しんだりしてきた。作品展では、リース・置物作りに取り組んだ。共に創り上げることを大切に、出来た喜びを味わった。また、本人の趣味を紹介する場にもなった。

## ③ その他の活動

グループ外出・宿泊体験等は、皆で行き先、行き方、食事場所等の意見を出し合い、行っていった。一人一人がそれぞれの楽しみを持って参加でき、そのことを楽しく思い出し、嬉しそうに話したりする姿が見られた。

○グループ外出（6月桜ヶ池 御前崎市）（7月蓮華寺池公園 藤枝市）

○個別外出（9月 フルーツパーク・温泉）

○宿泊体験（10月 竜洋オートキャンプ場）

○クリスマス会（12月 松ぼっくり）

○新年会（1月 法多山）

○活動参観（3月 静岡エコパスタジアム・散策）

○年度納めの会（3月 寿司徳外食・見付天神）

## スマイル

利用者さんひとりひとりにとって1日の見通しが立ちやすいカリキュラムを組むことで、安心して活動に参加できるように環境を整えた。

## ① 作業

利用者さんひとりひとりに合わせて作業を組み合わせていった。また、集中して作業を行える環境を整えていく中で利用者さんのエンパワーメントを高めていけるよう配慮した。様々な作業に取り組む中で個々のスキルアップ、能力の高さを改めて実感できた。

○ブリヂストン（キャップ分離作業）

○堀住加工（シール貼り、袋入れ、ホチキス留め作業）

○倉沢製作（電池パックのフィルムはがし）

○コーケン工業（リングはめ）

## ② 午後の活動

午後は、「外出」を基本とし、ひとりひとりがリフレッシュできるよう心がけた。季節を感じながら身体を動かす良い機会となった。ともしびコンサートやカラオケ等の余暇活動は参加できなかったため、今後参加できる形も検討していきたい。

## ③ その他の活動

○グループ外出

季節に合わせて外出先を選び計画・実施した。利用者さん本人が行き場所や内容を選択したり、決定できるように来年度はもっと工夫しながら計画していきたい。

（7月 浜名湖ガーデンパーク）

（1月 初詣・小国神社）

○個別外出

年に1回、希望者対象で実施した。各利用者さんが、楽しめるような場所や内容を計画したことで、普段とはまた違う素の表情を見せたり、リラックスできる時間となったと思われる。

（9月 浜名湖遊園地「パルパル」）

（11月 大井川SL、川根温泉）

（3月 浜名湖遊覧船、あらたまの湯）

## ○宿泊体験（8/31～9/1）

松ぼっくりの施設を利用して実施。宿泊ということで落ち着かない一面も見られたが、入浴は、職員がマン・ツー・マンで付き添うことで問題もなく公共の入浴施設を楽しむ事ができた。食事は、地域のファミリーレストランで行なう。場所をあらかじめ決めておらず不安になる方もみられたため、来年度は計画の中で検討し、みんなが楽しく食事ができるようにしていきたい。

## ビジョン

主な作業種は下記のとおりである。

### ① 作業

- 千栄加工（クリップ、カード入れ、ワイヤー入れなど事務用品の組立て）
- 堀住加工（袋入れ、ホチキス止め作業）
- コーケン工業（リングはめの仕事）
- 静岡フスマ商会（ふすまの組立て、梱包用のダンボール作り）
- さくらの苑、於保老健センター（ベッドメイキングの仕事）
- 缶回収
- 刺しゅう
- 公園清掃（ふるさと公園）
- 雑巾縫い
- 倉沢製作（電池パックのフィルムはがし）

### ② 午後の活動について

午前に引き続き内職など仕事をする人もあれば、公園で身体を動かしたり、図書館でゆっくりと音楽を聴いたり、新聞を読んだりして、リフレッシュする人もありました。又、内職や外出などの活動の他に、本人の希望を尊重し、施設外作業への参加も促した。

### ③ その他の活動について

- 個別外出…個々の希望に沿って年1回実施しました。  
（映画鑑賞、プロ野球観戦、ボーリング、温泉、動物園、水族館、買い物など）
- グループ外出…季節ごとの活動として、いくつかのグループに分かれて実施しました。  
（浜名湖ガーデンパーク、アクティ森、可睡齋、ぷるる、初詣）
- 宿泊体験…7/27～28、8/3～4の2回に分かれて実施しました。これは、利用者さんたちが楽しみにしている年間行事のひとつになっています。日課を終えて、磐田の湯で入浴を済ませてから、参加している皆さんの希望にそって外食をしました。夜は、仲間同士でおしゃべりをしながらお酒を飲んだり、テレビを見たり、花火をして楽しみました。また、職員とじっくり話をしている姿もありました。
- 季節の行事…クリスマスの昼食会、節分豆まき
- おやつ作り…ホットケーキ、どらやき、牛乳かん、おしろこ、あんみつ、さつまいもとリンゴのケーキ、バレンタインのチョコレートケーキ

## 樹 G

1人1人の思いを大切にし、伝え合う関わり、お互いの気持ちが変わり合える仲間作りを考えて過ごしてきた。また自分の気持ち等相談出来る関係を保ち、気持ちが安らげる環境を整えてきた。作業面ではそれぞれの目標を持ちながら、お互いに出来た事を喜び合ったり、助け合ったりして協力しながら完成させている。

活動面では、仕事とは違ったリフレッシュする時間の中で、楽しみと思いやりの心を持つてくることを大切にしてきた。

## ① 作業

気持ちよく作業に取り組めるよう、環境を整えながら、作業への意識、意欲が継続的に持てるように関わることを大切にしてきた。

- ・ ㈱コーケン工業（リングはめ作業）
- ・ 千栄加工（クリップ・カード入れ）
- ・ 堀住加工（袋入れ）
- ・ 倉沢製作（電池のフィルム剥がし）
- ・ 公園清掃（ふるさと公園）
- ・ (有)静岡ふすま商会（ふすまの組み立て・出荷用の箱・出荷時の衝撃緩和材作り）
- ・ 自主製品（布製品(シュシュ、コースター、メガネケース等)・メッセージカード)

## ② 午後の活動

利用者さんがお互いに意見を出し合って相談し決めた。自分の意見を言い、相手の意見を聞く中で、自分を通すこと、相手に譲ることができるようになってきた。

（内容：ドライブ、買い物、散歩、カラオケ、DVD鑑賞、おやつ作り、パソコン等）

## ③ その他の活動

### <個別外出>

楽しい計画でもあり、待つ間、当日も充実していたように思えた。しかし、思いがふくらみ不安になる姿もあった。

（主な外出先：鳥羽水族館、浜名湖ガーデンパーク、ららぽーと磐田、浜名湖、志都呂イオンショッピングセンター等）

### <グループ外出>

利用者さんが意見を出し合い、計画を進めてきた。その為、それぞれの楽しみ方をしてきた。来年度も継続して行っていきたい。

- 1月 六社神社 （お参り後おやつを購入）  
鴨江寺 （初詣とボランティアさんとの食事会）
- 3月 年度納めの会（ボランティアさんとの食事会）

### <宿泊体験>

利用者さんとご家族の方の意見を参考にして、9月に松ぼっくりで宿泊を行った。利用者さんが主体となって意見を出し合い内容を決めていった。それぞれのペースを大切にしていって、無理なく過ごすことができるように心掛けた。宿泊当日は、昨年と比べて慣れてきたためか不安になることが少なく眠れた利用者さんが増えた。

食事や買出しなどの場面ごとに、個々がそれぞれの楽しみ方をしてきた。

### <誕生会>

利用者さん個々の“自分の誕生日をお祝いして欲しい”との言葉から計画していった。お互いに気持ちよくお祝いすることができた。

- 内容：ケーキやお菓子、大判焼きを買いに行く。  
：法多山にお参りし、お団子を食べる。

## 5. 音楽活動

### 【ともしびコンサート】

音楽活動を中心に活動しているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽（歌）や楽器、歌のリクエストなどに親しむ機会を設け、室内コンサートを行う。

月に一度の「ともしびコンサート」も恒例となっており、演奏を聴いたり歌を歌ったり、皆で楽しい時間を過ごすことができた。

## 6. 環境美化委員会

- (1) 施設周りの美化・施設の周囲に燃えやすい物がないか等の見回りや竹やぶに落ちているゴミの処分を行った。草刈り・草取り・地域交流会の前と第1回大掃除の時に建物周辺の草刈り・草取りを実施。草取りについては、活動の中でも組み入れ、利用者さんと一緒に取り組んできた。また、ペットの排泄物については、ボランティアさんの力を借りて看板を設置。飼主の方に持ち帰ってもらうように呼びかけをしている。  
毎日放課後にトイレ掃除・床のモップがけを行ってきた。また、毎週金曜日、午後の活動に掃除を組み入れ、利用者さんと一緒に取り組んできた。
- (2) 大掃除については、年2回に分け、ご家族の力を借りながらそれぞれ2日間で実施した。  
第1回目・・・7月13日（金）、7月18日（水）第2回目・・・3月8日（金）  
今年度は冬季大掃除を1日のみ3月に実施した。内容を工夫し、出来る範囲で取り組んだ。
- (3) ゴミ出しについては市の定める規則に従って収集日の前日にゴミの分別を行い、当日ゴミ当番が集積所へ出した。又、粗大ゴミの処分については、地域交流会と大掃除の時期に合わせてコンテナを借り、施設内やハウス等の整理を通して粗大ゴミの処分を行った。

## 7. 安全委員会

### (1) 利用者の方の安全確保と安全運転管理

実際の活動が施設の外に出ていくことも多く、施設内のことに中々目が行き届かない思いがある。ヒヤリハットなどの報告がもっと活発になってくれると、外部に出ている施設内の出来事などイメージできると思う。利用者さんがケガをすることがないように、チームワークを高めて状況を把握し、見守っていきたいと思う。一方で、交通事故に関しては、今後も職員同士声を掛け合い、交通事故が起きないように安全への意識を高めていきたい。新たに公用車を運転する人については大きな事故はなかったものの物への接触等の事故は発生しているので、十分な配慮が必要である。・「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計結果については、別紙参照。

### (2) 施設設備（環境）の保全管理と研修について

施設設備の安全チェックが年に2回行えなかった。しかし、研修係りと協力して「安全予知」の研修を開くことができた。研修は来年度も行えたらよいと思う。マニュアルを確認する作業は大切。研修の繰り返しがヒヤリハット報告の提出増加につながるのではないと思う。

### (3) 緊急事態への対応

今年はヒヤリハット、事故ともに多かった印象。新しい体制としてスタートしたことも大きかったかもしれない。又、グループ内で情報がとどまっていることも多く、グループをまたいで安全につながるように情報を伝えあうことがとても重要だと思う。

事故報告書の書式については、発見者、報告者、家族への対応など複数の人が関わるにも関わらず報告者は一人なので、関わった複数の人で報告書を完成させる雰囲気づくりが必要ではないかと思う。発見者と報告者は違ってもしっかりと書式を修正した方が良いと感じている。緊急事態（事故）に対しては、今後も、マニュアルの検討を重ね、分かりやすく対応しやすいものにしていく。

## 8. 生活・保健衛生委員会

### (1) 健康診断及び記録について

健康診断は年2回実施。保菌検査は、職員は毎月実施した。健康診断の結果については、嘱託医に確認・捺印を頂き、各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。

採血の結果、数値が高いため通院を勧めた家庭もあった。レントゲン健診で再検査となった人が1名あり、再検査を家庭へ依頼した。

昼の薬はグループで管理をした。発作の記録が書きにくいいため、改良していきたい。また、投薬記録の変更も十分でなかった。

(2)体重測定について

毎月1回実施し、体重表を通して各家庭にお知らせした。

(3)『保健だより』の発行

- ・今年度は1回発行。
- ・時期や状況に合わせた情報提供をした。(ノロウイルスについて)

(4)衛生面について

医薬品については、必要に応じて購入し管理していたが、定期的なチェックができず、在庫がない時があった。来年度は気をつけていきたい。着替えの保管については衣装ケースで管理した。

(5)食中毒&感染症について

- ・インフルエンザやノロウイルスが流行る時期には、手洗い・うがいの声かけ、部屋の換気の実施などを積極的に行なった。水曜日の午後の清掃終了後、次亜塩素酸ナトリウムで消毒を行うようにした。スマイルグループでは、火曜日と金曜日の2回消毒を実施した。外作業の利用者さん用にはアルコール除菌を用意した。インフルエンザ予防のためにマスクも用意した。
- ・日常的には、うがい・手洗いの励行、部屋の換気を積極的に行なった。
- ・利用者や職員の家族に感染者がある場合は、通所禁止の措置をとった。松ぼっくりで、利用者さん本人感染1人、職員本人感染1人、家族が感染したための通所・出勤停止措置が利用者さん1人、職員1人あった。

## 9. 行事・バザー報告

月	行事等	参加者		バザー等	参加者	
		はまべ会	ボラ		利用者	はまべ会
4	年度始めの会 個別面談	○				
5	個別面談	○				
6	ウォーキング(親睦会)(23)	○		磐田北高校文化祭	○	呼びかけ
7	大掃除(13, 18)	○	○			
9				ふれあいまつり(22)	○	○
10	地域交流会(27)	○	○	地域交流会不用品バザー		全員
11				フェスティバル豊田(4) 光る子まつり(17)	○ ○	呼びかけ ○
12	ヤマハ労連観劇(11)			磐田ふれあい作品展(3~11)	○	
1	新年を祝う会・成人を祝う会		○			
3	大掃除(8, 13) 年度納めの会・感謝の集い	○	○	ドルチェ販売(3)	○	

## 10. 内部研修

年間計画を基に研修担当者で企画の立案と実施を行った。主に、水曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体研修5回、内部研修会3回の計8回の研修活動を実施した。

今年度は、事例発表会や虐待等といった内容も取り上げることができ、施設間の情報共有や普段の支援のあり方を見直す機会を持つことができた。しかし、出張報告について実施することができなかったのは反省点であったので、次年度に活かしていきたい。

### <活動内容>

日付	内容	担当者
5/30	自立支援協議会、地域療育センター・地域生活支援・ケアホームの事業報告、あにまあと・児童支援・理事長の話（合同研修会）	各担当者
7/25	事例発表（内部研修会）	各グループ
8/8	防災、危機管理、各施設からの事例・現状報告・情報交換会、理事長の話（合同研修会）	各担当者
10/10	虐待防止法、虐待チェックリストの実施、理事長の話（合同研修会）	研修担当者
12/19	感染症について（内部研修会）	生活保健委員会
1/16	口腔衛生・ブラッシング指導、そるとぼっと管理者の話（合同研修会）	外部講師 生活保健委員会
3/6	自己評価話し合い（内部研修会）	研修担当者
3/30	自己評価各施設発表、フリーディスカッション、虐待について、理事長の話（合同研修会）	各担当者 研修担当

## 11. 相談・福田チーム検討会・地域療育支援センター事業

施設等で受ける相談については、リーダーを中心に、地域生活支援事業の利用希望については、地域生活支援担当者を中心に実施した。また、当法人の地域療育支援センター（結）や他法人の地域療育支援センター、市町指定相談事業所、就業・生活支援センターなどの関係機関と連携をとりながら、地域からの相談に応じた。内容は、在宅者への生活支援、通所に関する相談・学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談等。また福田地区在宅者のケース検討会（福田チーム検討会）に参加。旧福田町の時から継続しており、地区内の各機関が一致した認識をもつことができ、協力して地域生活支援を行っていく土台作りの場となっており、積極的に参加できた。

## 12. 中東遠地区就業促進協議会並びに障害者就業・生活支援センター連絡会議

中東遠地区就業促進協議会は、障害者の就業を促進するために、教育関係機関、労働関係機関、福祉関係機関、企業等が連携協力を図ることを目的として開催された。また、同時に障害者就業・生活支援センターが主催する連絡会議も開催され、法人単位で参加した。

## 13. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱（厚生労働省通知）に基づき、障害福祉に関するシステムづくり（相談支援事業等）のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会（専門部会）をもって構成されている。

中遠地域自立支援協議会への参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて職員も参加した。

作業部会（精神部会、知的・身体部会）に参加するとともに、知的・身体部会では、「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」各専門部会に参加、そして「地域生活支援専門部会」では、7つの課題別検討会～「グループホーム・ケアホーム」「ショートステイ」「重心の在宅支援」「相談支援事業から見える在宅支援」「送迎サービス」「余暇支援」「自閉症・行動障害」～にそれぞれ積極的に参加。この内、「重心の在宅支援」「自閉症・行動障害」の担当及び「地域生活支援専門部会」全体のまとめ役等を福浜会が行っている。

「自閉的傾向・行動障害のある方の在宅支援検討会」は、松ぼっくりとそるとぼつとが担当施設になり、アンケートと検討会を実施した。

「重心の在宅支援」については、平成25年度より「課題検討会」から「専門部会」として出発する。

## 平成24年度 潮の香《生活介護事業・自立訓練事業》活動報告

### 1 平成24年度の定員（20名）及び施設機能利用事業対象者の状況

※生活介護事業（男9名/女5名）・自立訓練事業（男5名/女1名）の合計となります

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
男	14	14	14	14	14	14	15	14	14	14	14	14
女	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
計	20	20	20	20	20	20	21	20	20	20	20	20

### 2 その他の利用状況

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	特実 支習 等生	延べ 人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実研 習修 ・生	延べ 人員	0	6	8	0	0	4	8	4	0	8	4	0	42
	日数	0	3	4	0	0	2	4	2	0	4	2	0	21
見 学 者	件数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	人員	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
ボラ ンテ ィア	延べ 人数	21	22	21	21	13	5	7	15	14	18	19	15	191

## ＜生活介護事業＞ 活動報告

### 3 活動の状況

#### (1) 仕事について

本年度も、地域に根ざした自主製品の「祭典用のき花作り」、請負の「堀住加工有限公司（ヤマハの自動車部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「有限会社アイバ（ヤマハの船外機部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「ダイオ化成株式会社（網戸張替用ローラー）の袋詰め」の仕事を行ってきた。

また、地域の事業所で働く可能性を考えて「大橋藤雄さんの農業手伝い・コーケン工業（自動車部品）」に出向できる態勢を整えてきた。現在、生活介護事業からは、1名がコーケン工業に出向している。

#### 《のき花製作》

磐田市福田地区祭典用のき花（本年度も豊田地区から注文を受けた）の製作総本数の、約20,300本（約販売19,980本・寄付320本）を利用者さん・職員及びボランティアさんの協力を得て作業を進め、無事に出荷することができた。また、利用者さんの技量が向上したことで年々きれいな花になってきており、地域の方からも嬉しいお褒めの言葉を頂いたことで、利用者さんの大きな励みとなった。

#### 《請負作業》

「ヤマハの自動車部品・船外機部品の袋詰め」を行ってきた。月や月末によっては仕事量に差があり安定しないことがあるが、昨年度と比べると仕事量は全体で増加し、ほとんど休みなく続けることができた。「ダイオ化成株式会社」の仕事は、網戸張替用のローラーを袋に入れてから箱詰めする作業で、主に2名が関わっている。また、「有限会社マックス」から話を頂き、12月から新しい仕事を請け負うことになった。電気部品のカプラへのダミー作業で、細かい作業ではあるがヤマハの仕事の合間を縫い、現在多くの利用者さんが関わっている。

#### 《外部作業》

地域への社会参加と就労支援の一環として、地域の事業所等に積極的に出掛けて仕事をする機会を作ってきた。

大橋さんの農作業では、苗床の土入れ等に声を掛けていただき数日間出向できた。コーケン工業には現在も1名が出向しており、新しい作業にも挑戦し充実した毎日を過ごしている。

#### (2) その他の活動

毎日の生活を充実させるために、気軽に取り組み、楽しめる活動を目指してきたが、その日その月によって仕事量が違うため、計画的に進めることは難しかった。しかしその中でも、利用者さんの意見を取り入れて、自立訓練事業の方達と共に各種行事・外出を企画・実施し、たくさんの笑顔を見ることができた。

##### ① スポーツ・散歩・レクリエーション等

朝のラジオ体操・ストレッチ体操・散歩は毎朝励行してきた。ペットボトルに水を入れて利用したダンベル体操は、今年度もインフルエンザのことも考え12月からタオルを使うストレッチ体操に切り替えた。

毎年恒例のグランドゴルフ大会も行った。上位に入ろうと真剣に取り組みながらも楽しく行うことができた。

今後も、やりやすく利用者さん一人ひとりに適した運動はどんなものがあるか、検討し具体策を考えていきたい。

今年は初めて作業棟の玄関前を使って流しそうめんを行った。そうめん以外にもフルーツを流し、取るのにみんな夢中になり気がつくとお腹いっぱいだった。「またやりたい」の声が上がった。

## ② 料理作り

可能な限り自分の力で料理し、その楽しさを味わうことを目標に、昨年度は福田食推協の皆さんのご協力を得て年1回の調理実習を行えたが、残念ながら今年度は行うことができなかった。

作って食べる楽しみとして今回はホットケーキ作りを行った。実際は作るよりは食べる側だったが、好きな味付けを自分で選びトッピングする楽しさを味わうことができた。

## ③ 音楽・美術の鑑賞

美しいもの、創造的なものに触れるための美術鑑賞・音楽鑑賞会を積極的に行ってきた。美術関係では、豊田図書館や磐田市図書館で行われた磐田市在住の作家の作品を鑑賞し、身近な風景画や人物画等に親しむことができた。

音楽関係では、地域交流会で楽器演奏や歌を聴いたり、ヤマハ労連主催のチャリティ公演でミュージカルを観劇し、大いに笑ったり歌ったりと楽しむことができた。

日常的な音楽活動は、利用者さんが季節ごとに選曲した歌を朝の会で毎日欠かさず歌ってきた。

## ④ 本人会活動

余暇利用の仕方、清掃当番の決定及び初詣・食事会、クリスマス会などの行事・諸活動などできる限り利用者さん同士で話し合い、その要望・意見を取り入れてきた。

## ⑤ 野外活動（年間5・6回実施）

初詣・食事会のその目的地を考え、計画を立てる。など、かなりの部分で利用者さん自身の力を発揮することができた。また、野外活動には、どの利用者さんも関心を示し、意欲的に取り組んでいた。

主なものとして、今年度は浜名湖ガーデンパークに弁当を持って出掛け、コスモスの咲き誇る花壇など、さまざまな花・変わった植物の中で気持ちよく過ごすことができた。また、ミニ旅行は、富士山静岡空港で発着する飛行機を間近に見学し、空港でおいしい食事を食べた後は、開通して間もない新東名を通り帰った。空港では一人ひとりお土産を選んで買うことができ、充実した一日となった。

今年度で6回目のウォーキングは、浜北の県立森林公園を近距離と遠距離二つのコースに分かれて散策した。豊かな自然の中をおいしい空気を吸いながらゆったりと歩き、心身ともにリフレッシュできた。

## ⑥ 個別体験

今年度から、他施設で行っていることを取り入れ、個々の希望する体験を行った。内容は様々で、買い物と食事、カラオケ、温泉、動物園など少人数で出掛け、それぞれ一日を楽しく過ごすことができた。

## ⑦ 地域清掃

散歩をしながらゴミを拾う活動を行った。「ひろ道ウォーク」と名付けた活動で、少しでも地域のために役に立つこと、また、自分たちが気持ちよく歩けるようにと月に1回のペースで続けてきた。時には地域の方に、「ありがとう」と声を掛けていただくこともあり、励みをいただいている。

### (3) 食事について

- ・ ゆっくり噛みしめて食べたり、食事を楽しんだりしているので、食事時間のことについてはあまり細かく伝えないで様子を見てきた。
- ・ 食事前のテーブル拭きが、自分から進んでできるようになってきた。
- ・ 利用者さん1名は偏食が強いので、「何でも食べる、特に野菜を食べる」よう、何回も話し合ってきたが、多少の改善は見られたものの不十分である。今後もねばり強く話し合い、改善できるようにしたい。
- ・ 食事後、食堂の床の雑巾がけを利用者さんの当番制で行ってきた。進んで取り組む利用者さんが多かった。

### (4) 健康管理及び安全

利用者さん一人ひとりの健康を維持し、体力の向上を図るために、次のような支援をしてきた。

- ・ 日常生活の衛生面においては、手洗い、うがい、歯磨き等の励行を強力に進めてきた。ドアノブや手すりなど頻繁に触れる場所は、週1回の消毒を行ってきた。今年度もその成果があり、インフルエンザ等にかかる利用者さんはいなかった。
- ・ スポーツ、散歩など自ら進んで楽しむよう支援してきたが、自ら進んでできるのは一部の利用者さんだけであった。しかし、今までずっと自転車だった通所を徒歩に変え、自ら健康に注意する方がいたことは、大変喜ばしいことであった。
- ・ 朝のラジオ体操・ストレッチ運動・散歩は毎日欠かさず実行できた。
- ・ 心の悩みを訴える利用者さんには定期的に話を聞いたり、表情や身体の変化が見られる利用者さんには職員から積極的に話し掛けたりして、その対応を図った。心の病はすぐには改善されないため、主治医との綿密な連携や職員による傾聴など、必要に応じて対応を考えていかなければいけない。
- ・ 通所のための自転車利用に対しては、帰りの会等で毎日のように交通安全注意を呼びかけてきた。その成果もあってか、今年度は自転車による事故は皆無であった。
- ・ 地震（津波）及び火災を想定した避難訓練を毎月1回実施し、安全で迅速な避難ができるようさまざまな場面での「予告なしの訓練」を行ってきた。また、非常時に使うために購入した発電機を、訓練日に併せ定期運転を行った。

11月16日は、磐田市消防署の協力を得て施設防災訓練を実施した。通常の屋外への避難に加え、職員による通報訓練や全員で災害に関するビデオ鑑賞をし、災害への対応を学んだ。

- ・ 今年度は健康福祉会館の市整備で、潮の香の窓ガラスについても全て強化ガラスへと取り替えられたことにより、災害時の安全性が高まった。

### (5) 委員会活動

利用者さんの生活・健康管理並びに安全・環境整備等について、松ぼっくりと協力して委員会を設け、協議したり活動を行ってきた。

#### (ア) 生活・保健衛生委員会

- ・ 健康診断の実施（内科健診：5月16日、11月7日）  
レントゲン、採血、保菌検査（年2回）、身体測定・検尿（潮の香で実施）、嘱託医による問診
- ・ 個人の衛生面への配慮  
入浴、洗顔、洗髪、整容、うがい、手洗い、歯磨きなどの励行の奨励と、家庭との連携を図った。手洗い・うがいは外出後、毎回必ず行い点検も実施してきた。歯磨きは食後に行い、出来たら印を付けるように決め、意識を高めた。

- ・ 職員研修会を開き、講師を招き口腔衛生について学んだ。
- ・ 風邪予防を早めに呼びかけたり、うがい、手洗いを励行したりしてきた。その結果、今年度インフルエンザはゼロ、の成果が得られた。
- ・ 非常災害時や緊急時の対応ということで、利用者さんの投薬内容、発作の状況が分かるようにした。また、生活習慣病検診や、婦人病検診の対象者には家庭との連絡を取り、積極的に検診を勧めてきた。

#### (イ) 環境美化委員会

家族の方の協力を得て、6月29日、12月28日に奉仕活動日を計画し、本所と作業棟に分かれ作業室・食堂などの清掃・整理・ワックスがけ等行い、環境美化に努めた。気持ちよく通所できるように、花の世話や草取りなどを利用者さんと一緒に行ってきた。

#### (ウ) 安全委員会

- ・ 事故防止に対する意識向上を図るため、実際に起こった「事故」を例に挙げて、職員研修会を開催し学んだ。また、会議や朝のミーティングなどで事故防止に対する話し合いを適時行ってきた。
- ・ 毎月1回施設内外の設備点検を行い、不良箇所の修正に努めている。
- ・ 利用者さんも含めた火災及び地震避難訓練を毎月1回実施してきた。火災・地震・津波等さまざまな場面を想定し行ったが、職員の指示に従い、落ち着いて行動できるようになってきた。
- ・ 法人各施設から防災担当者を組織し、毎月の会議の場で、「大規模災害時の対応マニュアル」の整備や「緊急時安否確認名簿」の作成を進め各家庭及び全職員に配布することが出来た。

## <自立訓練（生活訓練）事業> 活動報告

### 4 活動の状況

#### (1) 仕事について

本年度は、新しく建設した作業棟において、主に地域に根ざした自主製品の「祭典用のき花作り」を行ってきた。時折、請負の「堀住加工有限会社（ヤマハの自動車部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「有限会社アイバ（ヤマハの船外機部品）の袋詰め・ホッチキス留め」の仕事も行った。

また、地域の事業所で働くことを目指して「カネ長水産加工業（シラス干し）・大橋藤雄さんの農業手伝い・フスマ商会（襖製作の一工程である骨組みの組立作業等）・コーケン工業（自動車部品）」に出向してきた。

自立訓練事業からはコーケン工業に3名が、フスマ商会には1名が出向している。シラス漁のシーズンには、土曜日に1名がカネ長水産に出向した。

#### 《のき花製作》

磐田市福田地区祭典用のき花（本年度も豊田地区から注文を受けた）の製作総本数の、約20,300本（約販売19,980本・寄付320本）を利用者さん・職員及びボランティアさんの協力を得て作業を進め、無事に出荷することができた。また、利用者さんの技量が向上したことで年々きれいな花になってきており、地域の方からも嬉しいお褒めの言葉を頂いたことで、利用者さんの大きな励みとなった。

#### 《請負作業》

時折ではあるが、「ヤマハの自動車部品・船外機部品の袋詰め」を行った。昨年と比べると、今年度は仕事量が増えてきた。そのため、本所だけでは間に合わないときなどには、作業棟でもヤマハの作業を行った。

## 《外部作業》

地域への社会参加と就労支援の一環として、地域の事業所等に積極的に出掛けて仕事をやる機会を作ってきた。

今年度も(有)カネ長水産・(有)フスマ商会・大橋さんの農作業に出向した。また、コーケン工業㈱にも3名が出向した。

大橋さんの農作業では、苗床の土入れ等に声を掛けていただき数日間出向できた。

コーケン工業㈱には現在3名が出向し、会社のルールをしっかりと守りながら、自分の持つ力を十分作業に発揮し、充実した時間を過ごしている。

## (2) その他の活動

毎日の生活を充実させるために、気軽に取り組み、楽しめる活動を目指してきたが、その日その月によって仕事量が違うため、計画的に進めることは難しかった。しかしその中でも、利用者さんの意見を取り入れて、生活介護事業の方達と共に各種行事・外出を企画・実施し、たくさんの笑顔を見ることができた。

### ① スポーツ・散歩・レクリエーション等

コーケン出向意外の方は、朝のラジオ体操・ストレッチ体操・散歩は毎朝励行してきた。ペットボトルに水を入れて利用したダンベル体操は、インフルエンザのことも考え12月からタオルを使うストレッチ体操に切り替えた。

毎年恒例のグランドゴルフ大会も行った。上位に入ろうと真剣に取り組みながらも楽しく行うことができた。

今後も、やりやすく利用者さん一人ひとりに適した運動はどんなものがあるか、検討し具体策を考えていきたい。

今年は初めて作業棟の玄関前を使って流しそうめんを行った。そうめん以外にもフルーツを流し、取るのに夢中になり気がつくとお腹いっぱいだった。「またやりたい」の声が上がった。

### ② 料理作り

可能な限り自分の力で料理し、その楽しさを味わうことを目標に、昨年度は福田食推協の皆さんのご協力を得て年1回の調理実習を行えたが、残念ながら今年度は行うことができなかった。

作って食べる楽しみとして今回はホットケーキ作りを行った。実際は作るよりは食べる側だったが、好きな味付けを自分で選びトッピングする楽しさを味わうことができた。

### ③ 音楽・美術の鑑賞

美しいもの、創造的なものに触れるための美術鑑賞・音楽鑑賞会を積極的に行ってきた。美術関係では、豊田図書館や磐田市図書館で行われた磐田市在住の作家の作品を鑑賞し、身近な風景画や人物画に親しむことができた。

音楽関係では、地域交流会で楽器演奏や歌を聴いたり、ヤマハ労連主催のチャリティー公演でミュージカルを観劇し大いに笑ったり歌ったりと楽しむことができた。

日常的な音楽活動は、利用者さんが季節ごとに選曲した歌を朝の会で毎日欠かさず歌ってきた。

### ④ 本人会活動

余暇利用の仕方、清掃当番の決定及び初詣・食事会、クリスマス会などの行事・諸活動などできる限り利用者さん同士で話し合い、その要望・意見を取り入れてきた。

⑤ 野外活動（年間5・6回実施）

初詣・食事会のその目的地を考え、計画を立てる。など、かなりの部分で利用者さん自身の力を発揮することができた。また、野外活動には、どの利用者さんも関心を示し、意欲的に取り組んでいた。

主なものとして、今年度は浜名湖ガーデンパークに弁当を持って出掛け、コスモスの咲き誇る花壇など、さまざまな花・変わった植物の中で気持ちよく過ごすことができた。また、ミニ旅行は、富士山静岡空港で発着する飛行機を間近に見学し、空港でおいしい食事を食べた後は、開通して間もない新東名を通り帰った。空港では一人ひとりお土産を選んで買うことができ、充実した一日となった。

今年度で6回目のウォーキングは、浜北の県立森林公園を近距離と遠距離二つのコースに分かれて散策した。豊かな自然の中をおいしい空気を吸いながらゆったりと歩き、心身ともにリフレッシュできた。

⑥ 個別体験

今年度から、他施設で行っていることを取り入れ、個々の希望する体験を行った。内容は様々で、買い物と食事、温泉、動物園など少人数で出掛け、一日を楽しく過ごすことができた。

⑦ 地域清掃

散歩をしながらゴミを拾う活動を行った。「ひろ道ウォーク」と名付けた活動で、少しでも地域のために役に立つこと、また、自分たちが気持ちよく歩けるようにと月に1回のペースで続けてきた。時には地域の方に、「ありがとう」と声を掛けていただくこともあり、励みをいただいている。

(3) 食事について

- ・ ゆっくり噛みしめて食べたり、食事を楽しんだりしているので、食事時間のことについてはあまり細かく伝えないで様子を見てきた。
- ・ 健康に配慮しなければいけない方については、油物に気をつけ量を減らすなどの支援を行った。
- ・ 健康を考え自ら食事の量を制限し、結果体重を減らすことができた利用者さんがいたことは大変喜ばしいことだった。
- ・ 食事後、食堂の床の雑巾がけを利用者さんの当番制で行ってきた。進んで取り組む利用者さんが多かった。

(4) 健康管理及び安全

利用者さん一人ひとりの健康を維持し、体力の向上を図るために、次のような支援をしてきた。

- ・ 日常生活の衛生面においては、手洗い、うがい、歯磨き等の励行を強力に進めてきた。ドアノブや手すりなど頻繁に触れる場所は、週1回の消毒を行ってきた。今年度もその成果があり、インフルエンザ等にかかる利用者さんはいなかった。
- ・ スポーツ、散歩など自ら進んで楽しむよう支援してきたが、自ら進んでできるのは一部の利用者さんだけであった。誰もが自ら行うよう支援のあり方を工夫したい。
- ・ 朝のラジオ体操・ストレッチ運動・散歩は毎日欠かさず実行できた。（外部作業の方を除く）

- ・ 心の悩みを訴える利用者さんには定期的に本人の話を聞いたり、表情や身体の変化が見られる利用者さんには職員から積極的に話し掛けたりして、その対応を図った。  
1 1月から通所できなくなった利用者さんには、弁当を届け一緒に食事をしながら話をし、定期的な通院ができるように介助を行った。その結果、徐々に通所できる日数が増えてきた。心の病はすぐには改善されないため、主治医との綿密な連携や職員による傾聴など、必要に応じて対応を考えていかなければいけない。
- ・ 通所のための自転車利用に対しては、帰りの会等で交通安全注意を呼びかけてきた。その成果もあってか、今年度は自転車による事故は皆無であった。
- ・ 地震（津波）及び火災を想定した避難訓練を毎月1回実施し、安全で迅速な避難ができるようさまざまな場面での「予告なしの訓練」を行ってきた。また、非常時に使うために購入した発電機を、訓練日に併せ定期運転を行った。  
1 1月16日は、磐田市消防署の協力を得て施設防災訓練を実施した。通常の屋外への避難に加え、職員による通報訓練や全員で災害に関するビデオ鑑賞をし、災害への対応を学んだ。
- ・ 今年度は健康福祉会館の市整備で、潮の香の窓ガラスについても全て強化ガラスへと取り替えられたことにより、災害時の安全性が高まった。

## （5）委員会活動

利用者さんの生活・健康管理並びに安全・環境整備等について、松ぼっくりと協力して委員会を設け、協議したり活動を行ってきた。

### （ア）生活・保健衛生委員会

- ・ 健康診断の実施（内科健診：5月16日、11月7日）  
レントゲン、採血、保菌検査（年2回）、身体測定・検尿（潮の香で実施）、嘱託医による問診
- ・ 個人の衛生面への配慮  
入浴、洗顔、洗髪、整容、うがい、手洗い、歯磨きなどの励行の奨励と、家庭との連携を図った。手洗い・うがいは外出後、毎回必ず行い点検も実施してきた。歯磨きは食後に行い、出来たら印を付けるように決め、意識を高めた。
- ・ 職員研修会を開き、講師を招き口腔衛生について学んだ。
- ・ 風邪予防を早めに呼びかけたり、うがい、手洗いを励行したりしてきた。その結果、今年度インフルエンザはゼロ、の成果が得られた。
- ・ 非常災害時や緊急時の対応ということで、利用者さんの投薬内容、発作の状況が分かるようにした。また、生活習慣病検診や、婦人病検診の対象者には家庭との連絡を取り、積極的に検診を勧めてきた。

### （イ）環境美化委員会

家族の方の協力を得て、6月29日、12月28日に奉仕活動日を計画し、本所と作業棟に分かれ作業室・食堂などの清掃・整理・ワックスがけ等行い、環境美化に努めた。

### （ウ）安全委員会

- ・ 事故防止に対する意識向上を図るため、実際に起こった「事故」を例に挙げて、職員研修会を開催し学んだ。また、会議や朝のミーティングなどで事故防止に対する話し合いを適時行ってきた。
- ・ 利用者さんも含めた火災及び地震避難訓練を毎月1回実施してきた。火災・地震・津波等さまざまな場面を想定し行ってきたが、職員の指示に従い、落ち着いて行動できるようになってきた。

- ・ 法人各施設から防災担当者を組織し、毎月の会議の場で、「大規模災害時の対応マニュアル」の整備や「緊急時安否確認名簿」の作成を進め各家庭及び全職員に配布することが出来た。

## 5 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会(専門部会)をもって構成されている。

中遠地域自立支援協議会への参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じて職員も参加した。

作業部会(精神部会、知的・身体部会)に参加するとともに、知的・身体部会では、「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」各専門部会に参加、そして「地域生活支援専門部会」では、7つの課題別検討会～「グループホーム・ケアホーム」「ショートステイ」「重心の在宅支援」「相談支援事業から見える在宅支援」「送迎サービス」「余暇支援」「自閉症・行動障害」～にそれぞれ積極的に参加。この内、「重心の在宅支援」「自閉症・行動障害」の担当及び「地域生活支援専門部会」全体のまとめ役等を福浜会が行っている。

「自閉的傾向・行動障害のある方の在宅支援検討会」は、松ぼっくりとそるとぼつとが担当施設になり、アンケートと検討会を実施した。

「重心の在宅支援」については、平成25年度より「課題検討会」から「専門部会」として出発する。

# 平成24年度地域療育支援センター「結」 事業報告

## 1. 平成24年度の状況

登録者数 112人

電話 実人員 39人 延べ回数 542回

訪問 実人員 41人 延べ回数 282回

来所 実人員 13人 延べ回数 39回

## 2. 内容については

- ・福祉サービスの利用援助・情報提供
- ・主に発達障害の方の就労支援
- ・ケアホーム・グループホーム等の住まいについて
- ・金銭管理等の権利擁護について
- ・生活支援について など

## 3. 就労や生活支援など長期にわたる支援については

就業・生活支援センター、発達障害コーディネーター、包括支援センター、ケアマネ、ヘルパー事業所、社会福祉協議会（日常生活自立支援制度担当）、後見人といった方々との連携で支援をすすめる事がほとんどであった。

数年前から家庭の事情により姉妹で、平成24年度末までにケアホームへの入居を希望されていたケースがあった。中遠自立支援協議会の中の検討会において情報交換をしていたが、年度当初に菊川市より空き情報の提供をいただく事ができ、1年間をかけて体験利用から実際の入居へと無事に繋がる事ができた。

## 4. 地域療育支援センター事業の廃止と療育三事業について

地域療育支援センター事業は、昨今の自立支援協議会の立ち上げや、各市町での相談支援体制の整備などにより、平成24年度をもってコーディネーター事業は廃止される運びとなった。はまぼうとしては、平成21年度からの4年間の事業継続となったが、外に出てみてまだまだ障がい者にとっては住み難さが多い状況を確認すると共に、自立支援協議会を中心に張られたネットワークの網の目が、少しずつ強固にされつつある環境を実感することができた。

コーディネーター事業は廃止となったが、療育三事業については、平成25年度以降も県から引き続き委託を受けることとなった。この事業の今年度の状況については、これまで法人の生活介護事業の施設利用者からの相談件数を含めて計上していたが、生活介護事業の中に相談も含まれるとしてそれを除くこととなったため、訪問相談数1件、外来相談数7件にとどまった。

# 平成24年度指定特定・障害児相談支援事業所「結」 事業報告

## 1. 平成24年10月より磐田市の認可を受けて実施する。

### (1) 事業概要

障害者（児）の自立した生活を支え、障害者（児）の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援する。

### (2) 対象者

- ・ 障害福祉サービスまたは地域相談支援を利用するすべての障害者
- ・ 障害福祉サービスを利用するすべての障害児

### (3) 対象地域・・・磐田市、袋井市

### (4) 内容

#### ①計画相談支援

##### ○支給決定時（サービス利用支援・障害児支援利用援助）

- ・ 支給決定又は支給決定の変更前に、サービス等利用計画・障害児支援利用計画（以下、「計画」という。）案を作成
- ・ 支給決定又は変更後、サービス事業者等との連絡調整、計画の作成

##### ○支給決定後（継続サービス利用支援・継続障害児支援利用援助）

- ・ 厚生労働省令で定める期間ごとに、サービス等の利用状況の検証を行い計画の見直しを行う（モニタリング）。
- ・ サービス事業者等の連絡調整、支給決定又は支給決定の変更に係る申請の勧奨。

#### ②基本相談支援

- ・ 障害者や障害児からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等の他、必要な便宜を供与する支援

## 2. 平成24年度を振り返って

① 本年度から始まった事業ということもあるが、利用サービスが決まった上での計画作成が多かった。

### ・ 作成した計画内容

特別支援学校を卒業する方の計画作成

受給者証変更に伴う計画作成

就労支援A型の利用に伴う計画作成

児童発達支援事業の利用に伴う計画作成

② 計画相談の依頼を受けてサービス等利用計画を作成するが、その後も引き続き自宅訪問、家族支援等の相談支援が必要となるケースもある。この事業は基本相談も含まれており、そのような対応もすることにはなっているが、継続して相談支援が必要な場合は、一般相談として市の委託を受けている相談支援事業所の対応が望ましいのではないかと思われるケースも見受けられた。委託相談支援事業所や他の相談支援事業所と連携しながら、今後の相談支援の在り方を検討していく必要性を感じた。

## 平成24年度 地域生活支援事業活動報告書

静岡県及び各市町が定めた「地域生活支援事業」及び「障害児者ライフサポート事業」実施要綱等に基づき、3市1町の委託を受けて地域生活支援事業・ライフサポート事業・福祉有償運送を実施。利用者さん等からの依頼を受け、必要に応じた地域生活支援サービスを提供することにより、障がいのある人やその家族が地域で安心して生活できるための支援を行った。

今年度実施したサービス内容等は次のとおり。

### 1. 提供サービス内容

地域生活支援事業（提供市町村：磐田市、袋井市、掛川市及び森町）

日中一時支援事業

移動支援事業（袋井市：外出介護事業）

ライフサポート事業（提供市町村：磐田市、袋井市及び掛川市）

ヘルパー派遣（自宅等での支援、外出支援、送迎サービス）、デイサービス

福祉有償運送（提供市町村：磐田市、袋井市及び掛川市）

### 2. サービス提供時間

原則として6：00～22：00で対応し、支援を行った。

### 3. 利用状況

施設利用者さんや特別支援学校の生徒さんからの依頼が中心だった。今までは、増加傾向にあった依頼も落ち着いた感じが受けられる。

移動支援に関しては、健康維持のための散歩の付き添いという支援があった。

特別支援学校の長期休暇時には、毎年のように依頼が増加する。

サービス提供時間に関しては、早朝や夜間の支援依頼はほとんどなかった。依頼の内容は、8：00～19：00の時間内に集中していた。

森町に関しては、依頼自体もなかったが、福祉有償運送（運営協議会が設置されていない）やライフサポート事業の契約を行うことができなかった。

菊川市の方から、相談支援事業所を通して相談はあったが、市との契約などもしていなかったため、支援には至らなかった。

### 4. その他

土、日曜日や祝祭日などの施設の閉所日の支援に関しては、ヘルパーさんに依頼をしていることが多いため、その時に、大災害等があった場合の対応について、法人としての検討を進めている。

また、大きな事故や利用者さんに怪我などというようなものではなかったが、車両の接触などの事故の報告を受けた。

## 別表

## H24 地域生活支援事業 月別実績件数

## 磐田市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H23
ライフサポート	38	80	63	44	16	65	71	71	55	79	65	47	694	621
日中一時	134	137	129	169	179	151	148	152	135	140	130	147	1751	2107
移動支援	0	6	0	5	6	8	10	6	6	8	6	5	66	15
合計	172	223	192	218	201	224	229	229	196	227	201	199	2511	2743

## 袋井市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H23
ライフサポート	14	14	14	18	7	15	19	21	12	10	16	13	173	213
日中一時	69	58	60	71	70	55	90	35	50	44	43	48	693	954
外出介護	4	2	0	3	2	0	3	0	3	1	3	2	23	5
合計	87	74	74	92	79	70	112	56	65	55	62	63	889	1172

## 森町

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H22
日中一時	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
外出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

## 掛川市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H22
日中一時	4	2	4	3	5	4	3	3	4	3	1	0	36	37
合計	4	2	4	3	5	4	3	3	4	3	1	0	36	37

# 平成24年度 共同生活介護事業「汐風」活動報告

## 1. 入居者さん及び各ケアホームの状況

4ヶ所すべてのケアホームでは、大きな事故等もなく生活を送ることが出来た。

### 【汐 風】

入居者さんの高齢に伴い、朝の身支度などに時間がかかるが増えてきたため、一時期世話人2人体制で対応をして様子を見ることがあった。入居者さんの状況も落ち着いたため、1人体制に戻した。

就労している入居者さんの職場の異動（県外）の話もあり、就労支援事業所「だんだん」や相談支援「結」などとも話し合いを行った。また、本人の希望から、お弁当を用意して欲しいとの事で、その希望にも応えた。

### 【あしたば】

全身性障がいのある入居者さんからの通院や買い物などの依頼が増え、地域生活支援事業を利用していただき、対応をした。また、家族の方が特別養護老人ホームに入居されたこともあり、自宅に帰ることがなくなり、ケアホームで生活をしている。

夏には野菜を育て収穫を楽しみ、みんなで外出するなど、楽しみを見つながら生活を送ることができた。外出に関しても世話人さんだけでなく、入居者さんも交えながら話し合いをして計画を立てた。

### 【日 和】

10月に入居者さんから、実家に戻りたいというの希望があり、退所し、実家のある市に戻った。事前に、その市にある相談支援事業所と連絡を取り合いながら、戻った後の就労及び生活支援をお願いした。そのときには、当法人の相談支援事業所「結」にも協力をお願いして、関係機関との連携をお願いした。

その後の新しい入居者さんに関しては、周りの相談支援センターから情報をいただき、話を進めたが、入居までには至らなかった。

### 【みぎわ】

入居者さんが、精神的な面からそれまで通所していた施設に通えなくなり、ケアホームに残ることが多く、通所施設の職員が昼食を運びながら、対応をした。現在は、少しずつであるが回復し、通うことが出来るようになってきた。

その他、生活のリズムが崩れてしまい、スムーズに起床することが出来なかつたり、やりたいこと（こだわり）が増えてしまい、生活に支障が出てしまった入居者さんもいた。

## 2. 世話人体制

汐風、日和、みぎわは世話人一人体制で行う。あしたばは、全身性障がいの方がいるため、時間帯によって2人体制で行った。日和の宿直は週2回で対応をした。日和以外のケアホームの夜間体制は、毎日1名の宿直体制を採っている。そのため、宿直者が不足することがあったり、また日中支援(通院や買物等)の依頼もあつたりする場合は、バックアップ職員が対応したりや世話人に依頼するなど、法人全体でフォローして行った。

また、入居者さんの状況に合わせて、世話人の体制を変える（異動等）などの対応をした。

## 3. 健康管理

毎朝のバイタルチェックとして検温を行い、健康管理に留意した。健康面から見た場合、食事内容は重要であり、肥満等の予防も兼ね、栄養バランスなど考えた世話人の手作り料理を提供するようにしている。就寝前後、起床前後のエアコンなどの温度調節、管理も行う。

また、時間があるときには、入居者さんと散歩に出かけ、体力維持、運動不足解消を行ったが、年齢に伴い少しずつ体重が増えてしまう方もいた。

#### 4. 支援

入居者さんより出た外出や交流会の希望を受けて、世話人と相談し、それぞれのケアホームで計画を立てて余暇を楽しんだ。ケアホームによっては、外出に行かない代わりに、普段の食事にはあまり出ないようなものを買ってきて、みんなで食事をするなど、ホームそれぞれにメリハリをつけながら、有意義な生活を送れたのではないかと。

#### 5. その他

各ケアホームの世話人とバックアップ職員と話し合いを行い、問題等の確認をしたが、世話人との情報の共有が難しい面もあり、課題として残った。バックアップに入ったときには、できるだけ世話人との情報交換などを行うように心掛けた。

世話人の勤務状況や支援方法については、その理念や目的にそって研修等を重ねて理解を得る努力はした。結果として、スムーズに伝わらないこともあり、何度も話し合いを重ねた。

また、防災対策については、法人内の各施設の防火管理者と協力しながら、大災害などに備えた内容に見直していく必要性を感じている。現在、定期的で開催されている施設の防火管理者による防災担当者会議で、ケアホームの災害時の対応も検討している。特に、みぎわに関しては、海にも近いこともあり、津波対策や避難方法など配慮すべき点も多く、検討をしている。